

## 第三節 教育事業

### 一 教育制度

廣ク教育ト謂ヘハ人ノ精神作用ヲ發達向上セシムル目的ヲ有スル繼續的事業ノ全部ヲ汎稱スト雖行政法上狹義ニ於テ教育事業ト謂フトキハ學校ナル設備ニ依リテ精神作用ノ發達向上ヲ圖ル事業ノミヲ指稱スルモノナリ。抑モ學校トハ一定ノ學問ヲ修得セシムルモノトシテ公認セラレタル設備ニシテ之ヲ該設備ヲ維持シ管理スル者ノ如何ニ依リ分類スレハ官立、公立及私立ノ三種ト爲ス可ク、之ヲ其ノ如何ナル教化目的ニ使用セラルルヤニ依リ分類スレハ基礎教育ノ爲ニスルモノ、普通教育ノ爲ニスルモノ、師範教育ノ爲ニスルモノ、業務教育ノ爲ニスルモノ及學理教育ノ爲ニスルモノノ五種ト爲ス可ク、之ヲ其ノ使用セラルル教育ノ程度ニ依リ分類スレハ初等學校、中等學校及高等學校ノ三種ニ分類スルヲ得ルモノトス。今現行制度上ヨリ各種ノ學校令ニ付之ヲ見レハ幼稚園及小學校ハ基礎教育ノ爲ニ存スル初等教育機關タリ。中學校及高等女學校ハ普通教

學校ノ意  
義及種類

育ノ爲ニ存スル中等教育機關タリ。師範學校及實業學校ハ師範教育又ハ業務教育ノ爲ニ存スル中等教育機關タリ。高等學校ハ普通教育ノ爲ニ存スル高等教育機關タリ。高等師範學校及各種ノ專門學校ハ師範教育又ハ業務教育ノ爲ニ存スル高等教育機關タリ。單科大學及綜合大學ハ學理教育ノ爲ニ存スル高等教育機關タルナリ。

教育行政

而シテ學校教育ノ事業ハ敢テ國家ノ獨占スル所ニ非スシテ一般私人ニモ自由ニ之カ經營ヲ爲スヲ得シム。然レトモ學校教育ノ如何ハ事公益ニ關スル重大ナルカ故ニ國家ハ一面ニ於テ自ラ公企業ノ一種トシテ各種ノ學校教育ヲ經營スルト共ニ他面ニ於テ一般私人ノ經營ニ係ル學校ニ對シテハ其ノ修業年限、教科目、教科書、教員、校舍及學生ノ資格等ニ付守ルヘキ準則ヲ定メ劃一的ニ之カ經營ヲ爲サシメ學校ノ設立ニ付テモ總テ國家ノ認可ヲ受ケシムルコトトシタリ但シ私立學校設立ノ認可ハ敢テ公企業ノ特許タル性質ヲ有スルモノニ非ス唯教育行政上ノ監督手段トシテ之ヲ行フニ過キス。仍ホ茲ニ一言スヘキハ國家カ自ラ學校教育ヲ經營スル場合ニ於テモ之カ物的設備タル學校ノ維持及管理ニ付テハ必



シモ國家自ラ當ルモノニ非スシテ多クノ場合ニ於テハ却テ公共團體ヲシテ之カ維持管理ヲ爲スノ義務ヲ負ハシムルコトナリ。從テ私立學校ト謂ヘハ常ニ私人自ラ之ヲ經營シ其ノ設備ノ維持管理ヲ爲スモノナリト雖公立學校ニ於テハ公共團體ハ唯其ノ設備ノ維持及管理ヲ爲スニ止マリ事業自體ハ國家自ラ自己ノ機關ニ依リ之ヲ行フモノナルコトヲ忘ル可カラス。

## 二 學校負擔

國家ハ教育ノ普及充實ヲ圖ルカ爲ニ一定ノ學校ノ設立及維持ヲ以テ公共團體ノ義務トシ國家ハ之ヲ利用シテ自ラ學校教育ノ事業ヲ經營スルコト頗ル多シ。斯クノ如クシテ學校教育ノ爲ニ命セララルル公共團體ノ義務ヲ稱シテ學校負擔ト謂ヒ其ノ中ニハ必ス之ヲ設立維持セサル可ラサル強制負擔ノ性質ヲ有スルモノト設立ハ絶對ノ必要ニ非スト雖一度設立シタル後ハ任意ニ之ヲ廢止シ得サルノ制限ヲ受クル所謂隨意負擔ノ性質ヲ有スルモノト在リ。市町村、市町村内ノ區、町村學校組合其ノ他カ尋常小學校ヲ設置シ北海道、府縣カ中學校、高等女學校及師範學校ヲ設置シ主務大臣ヨリ命セラレタル場合ニ於テ北海道又ハ府縣カ實業

學校ヲ設立スルカ如キハ前者ノ例ニシテ北海道、府縣及市カ任意ニ專門學校又ハ實業學校ヲ設立シ市町村及町村學校組合カ任意ニ中學校、高等女學校及實業學校ヲ設立シ市町村又ハ町村組合カ高等小學校ヲ設立シ商業會議所カ實業學校ヲ設立スルカ如キハ皆後者ノ例タリ。其ノ何レニ屬スルヲ問ハス學校ノ設備ヲ維持管理シ之ニ要スル人的及物的ノ費用ヲ公共團體カ負擔スルハ同一ナリ。

## 三 利用關係

學校ノ利用關係ヲ見ルニ官立及公立ノ學校ニ在リテハ企業主體ハ統治權ノ主體トシテ發現スル國家ナレハ其ノ性質公法關係ニ屬スルモノト見ルヘク之ニ反シテ私立學校ニ在リテハ企業主體ハ私人ナルカ故ニ其ノ利用關係ハ之ヲ私法關係ナリト解スルヲ正當トス。從テ利用ノ對償トシテ徵收スヘキ授業料モ亦官立及公立ノ學校ニ付テハ公ノ手數料ニシテ私立學校ニ付テハ私法上ノ反對給付タル性質ヲ有ス、但シ授業料ノ強制徵收ハ唯府縣市町村等ノ設立ニ係ル公立學校ニ付テノミ認メラレ官立學校ニ付テハ之ヲ認メラレス。仍ホ授業料ハ學校ノ授業ニ對スル報償ナレハ之カ收入ハ學校設備ノ維持管理ノ任ニ當リ其ノ費用ヲ負



## 就學義務

擔スルモノニ歸屬スヘキハ事理ノ當然ニシテ官立學校ノ授業料カ國家ニ歸屬シ  
公立學校ノ授業料カ公共團體ニ歸屬シ私立學校ノ授業料カ經營者タル私人ニ歸  
屬スルハ論ヲ俟タス（小學校令第五十八條）。

終ニ説明スヘキハ學齡兒童ノ就學強制ニシテ尋常小學校ニ付認メラルル所謂  
義務教育ノ制度ナリ（小學校令第三十二條以下）。而シテ義務教育ノ内容ハ學齡  
兒童ヲシテ尋常小學校ノ教科ヲ受ケシムルニ在リ。兒童ノ親權者又ハ後見人ヲ  
以テ義務者トス。尋常小學校ノ教育ハ斯クノ如ク義務教育トシ之カ利用ヲ強制  
セラルルノ結果トシテ尋常小學校ノ設立維持者タル市町村ハ原則トシテ之ニ付  
授業料ヲ徵收セス唯特別事情アルトキニ限り市町村長ハ府縣知事ノ認可ヲ受ケ  
一定範圍ノ授業料ヲ徵收スルヲ得ルノミ（小學校令第五十七條）。仍ホ就學義務  
ヲ命スルニ付現行制度ニ於テハ小學校令ナル勅令ヲ以テスルモ其ノ正當ニ非サ  
ルハ曩ニ述ヘタルカ如シ。蓋シ教育ノ自由ハ帝國憲法ノ明言スル所ニ非スト雖  
文化民一般力之ヲ享有スヘキハ法治國タル當然ノ結果ニシテ其ノ自由ヲ強制ス  
ルニハ必ス法律ノ形式ヲ以テセサル可ラサルモノナレハナリ。

## 第四節 貨幣ノ製造及發行ノ事業

## 一 貨幣ノ觀念

貨幣ノ意  
義及種類

廣義ニ於テ貨幣ト謂フハ法上金錢債務ノ辨濟方法トシテ強制通用力ヲ認メラ  
ルル財貨ニシテ之ヲ狹義ニ於ケル貨幣即硬貨ト紙幣トノ二種ニ分ツコトヲ得。  
硬貨トハ金屬貨幣ニシテ其ノ中ニハ本位貨幣ト補助貨幣トノ二種在リ。前者ハ  
無制限ニ強制通用力ヲ有スルニ反シ後者ノ強制通用力ニハ其ノ額ニ付一定ノ限  
度アリ。紙幣トハ一種ノ有價證券ニシテ其ノ中ニハ兌換紙幣、不換紙幣及兌換  
銀行券ノ三種アリ。不換紙幣ハ金屬貨幣ト兌換セラレサルモノニシテ其ノ通用  
力ニ對スル經濟上ノ基礎ヲ有セス唯一時的急變ニ處スルノ措置トシテ發行セラ  
ルルコトアルニ過キスト雖兌換紙幣ト兌換銀行券トハ發行者カ政府ナリヤ銀行  
ナリヤノ相違アルニ止マリ何レモ其ノ性質ニ於テハ何時ニテモ金屬貨幣ト兌換  
シ得ルモノニシテ經濟生活ノ實際ニ於テハ金屬貨幣ニ代リ最モ善ク流通スルモ  
ナリ。



二 貨幣ノ製造及發行

抑モ貨幣ハ價值ノ尺度タルモノニシテ貨幣制度ノ如何ハ經濟生活ニ影響スル所頗ル大ナリ從テ國家ハ自ラ貨幣ノ種類ヲ定メ之カ製造發行ニ付テモ一般私人ノ自由ニ放任スルコト無シ。而シテ我國現行制度ヲ見ルニ硬貨ハ必ス一定ノ品質、量目及形狀ヲ具ヘサル可ラサルモノニシテ之カ製造及發行ハ國家ノ獨占企業ニ屬シ一般私人ニ對シテハ唯自由鑄造ノ途ヲ認メラルルニ過キス(貨幣法)。兌換紙幣トシテハ唯補助硬貨ニ代用スルノ目的ヲ以テスル小額紙幣ニ限り之ヲ認メラレ其ノ製造及發行ハ固ヨリ國家ノ獨占ニ屬ス(大正六年勅令第二百二號)。之ニ反シテ兌換銀行券ニ付テハ國家ハ自ラ之カ製造及發行ヲ爲サス經濟生活ノ中樞ヲ爲ス中央銀行ニ特許シテ之ヲ爲サシメ以テ實際ノ需要ニ應セシムルコトトス。全國ニ互リ一般ニ通用力ヲ有スル兌換銀行券ヲ發行シ得ルモノハ即日本銀行ニシテ其ノ製造發行ニ關シテハ兌換銀行券條例及日本銀行條例等ニ詳細ノ規定アリ。更ニ橫濱正金銀行、朝鮮銀行及臺灣銀行モ亦各一定ノ地域ヲ限リ強制通用力ヲ有スル兌換銀行券ヲ製造發行シ得ルノ特權ヲ認メラル(明治三

十九年勅令第二百四十七號、朝鮮銀行法、臺灣銀行法)。



### 第三編 公物法

#### 第一章 公物ノ觀念

##### 一 公物ノ意義及種類

公物トハ國家其ノ他ノ公法人ニ依リ直接ニ公用ニ供セラルルモノトシテ認定セラレタル不動産及動産ヲ謂フモノニシテ公物ト私物トノ區別ノ標準ハ直接ニ公用ニ供スルモノトシテ認定セラレタリヤ否ヤニ在リトス。從テ公物タルカ爲ニハ必シモ公衆一般ノ使用ニ供セラルルモノタルコトヲ要セス、國家其ノ他ノ公法人ニ於テ苟モ公用ノ爲ニ供セラルルモノト認メラルル以上ハ唯其ノ管理者ノミカ之レヲ使用スルニ過キスト雖尙ホ公物ノ一種ニ屬スルナリ。而シテ公衆ノ使用ニ供セラルル公物ハ之ヲ公共使用物又ハ公衆使用物ト謂ヒ其ノ中國家其ノ他ノ管理權者ニ依リ公衆一般ノ自由使用ニ供セラルルモノヲ自由使用物ト謂ヒ管理權者ノ特別ノ許容ヲ受ケ始メテ之カ使用ヲ許サルルモノヲ許可使用物ト謂フ。道路、橋梁、公園、河川、港灣、海面、海濱等ハ前者ニ屬シ學校、圖書館、博物

公物ノ意義

公物ノ種類

館、墓地、屠場、市場及鐵道等ハ後者ニ屬ス。次ニ公衆ノ使用ニ供セラルルコト無クシテ單純ニ國家自身ノ用ニ供セラルルニ過キサル公物ハ之ヲ公用使用物又ハ行政物ト謂ヒ議事堂、官衙、公署、監獄、兵營、要塞、練兵場、軍艦其ノ他此等ニ附屬スル動産等之ニ屬ス。

公物ト其ノ所有權

次ニ公物タルカ爲ニハ必シモ國家其ノ他ノ公法人ノ所有ニ屬スルコトヲ要スルモノニ非サルト共ニ國家其ノ他ノ公法人ノ所有ニ屬スル物ト雖總テカ公物タル性質ヲ有スルモノニ非ス。公物ハ其ノ公法人ノ所有ニ屬スルヤ又私人ノ所有ニ屬スルヤニ依リ之ヲ公有公物ト私有公物トニ分ツヘク國家ノ財産タル物件ハ其ノ直接ニ公用ニ供セラルルヤ又ハ收益ノ爲ニ所有セラルルヤニ依リ之ヲ行政財産ト收益財産トニ區別ス。

##### 二 公物ノ設定及解除

一定ノ物件カ公物ト爲ル爲ニハ其ノ物カ公用ニ供シ得ヘキ狀態ニ在ルコト及管理權者ニ於テ之ヲ公用ニ供スルノ意思ヲ有シ之ヲ表示スルコトノ二條件ヲ具備セサル可カラス、其ノ何レカヲ缺ク場合ニ於テハ假令事實上公用ニ供セラル

公物ノ設定



ルコトアルモ未タ公物タルノ性質ヲ有セス。而シテ管理權者カ公用ニ供スルノ意思ハ公共使用物ニ付テハ公衆ノ使用ヲ開始スルノ事實ニ依リ、公用使用物ニ付テハ事實上公務ニ使用スルニ依リ何レモ積極的行爲ヲ以テ表示セラルルヲ原則トスト雖モ河川、湖水、海面、海濱等ノ所謂自然公物ニ付テハ管理權者タル國家ハ敢テ積極的行爲ヲ以テ之ヲ公用ニ供スルノ意思ヲ表示スルモノニ非ス、消極的ニ之カ公用ヲ禁止スルノ意思ヲ表示セサル限りハ概括的ニ之ヲ公用ニ供スルノ意思ヲ表明セラルルモノト解セサル可ラス、蓋シ是等ノ自然公物ハ其ノ事物自然ノ構造ニ於テ一般公共ノ使用ニ供セラルル性質ヲ有スルモノナレハナリ。又國家其ノ他ノ公法人ト雖自己ノ所有物ニ非サレハ自由ニ之ヲ公用ニ供シ得ルモノニ非ス。之ヲ公用ニ供スルカ爲ニハ法律上ノ權限アルニ非サレハ各種ノ法律原因ニ依リ該物件ニ付之ヲ公物ト爲シ得ルノ私法上ノ權利ヲ取得スルニ非サレハ之ヲ公物ト爲スヲ得ス蓋シ公物ト爲スノ結果ハ私法上ノ物權ヲ制限スルモノニシテ斯クノ如キハ法律ニ依ルニ非サレハ爲シ得ヘキ所ニ非サレハナリ。

## 公物ノ解除

次ニ公物ハ前記ノ條件ヲ前提トシテ存在スルモノナレハ公用ニ供シ得サル状態ニ至リタルトキ又ハ管理權者カ公用ニ供セサルノ意思ヲ有スルニ至リタルトキニ於テハ其ノ性質ヲ失フモノトス。

## 三 公所有權ノ觀念

公所有權ナル觀念ヲ認ムヘキ否ヤハ公共使用物ニ付學者間ニ論議セラルル所ニシテ一派ノ學者ハ公物使用ニ對スル所有者ノ權利行使ハ原則トシテ公法ニ依リ支配セラルルモノナレハ之ヲ公所有權ト解スヘシト主張ス。然レトモ公物カ公法ノ支配ヲ受クルハ國家其ノ他ノ公法人カ所有權ヲ有スルカ爲ニ非スシテ其ノ公用ニ供セラルルカ爲ナルハ私有公物ニ付テモ亦公法ノ適用アルニ見テ明瞭ナルヘク更ニ公物ニ付テモ其ノ公用ヲ妨ケサル限度ニ於テハ私法上ノ所有權ノ發現ヲ許スニ見レハ公所有權ナル觀念ヲ認ムルハ正當ニ非ス。公物ニ付公法ノ適用アルハ其ノ公用ニ供セラルルカ爲ニシテ私上ノ所有權行使カ制限ヲ受クルハ唯其ノ結果ノミ。公物カ公共用ニ供セラルルコト無キニ至レハ從來停止セラレ居タル所有權行使ハ完全ニ其ノ效果ヲ發スルニ至ルモナリ。

## 公所有權ノ觀念



四 公物ニ對スル所有權制限

公物ハ公用ニ供セラルル理由ニ依リ公法ノ支配ヲ受クルニ至リ其ノ範圍ニ於テハ私法上ノ權利行使ヲ制限セラルルモノトス。而シテ公物カ如何ナル程度ニ於テ私法ノ支配ヲ排斥スルヤニ付テハ必シモ法制上明瞭ニ規定セラルルモノニ非ス、多クハ條理ト慣習トニ依リ之ヲ決スルノ必要アリ。今其ノ主ナルモノヲ擧クレハ凡ソ次ノ如シ。

イ 處分權ノ制限 公物ハ公用ニ供セラルルモノトシテ認定セラレタルモノナレハ苟モ公用ヲ妨クルノ處分ハ絕對ニ之ヲ許サス。法律上ノ處分タルト事實上ノ處分タルトヲ問ハス此ノ範圍ニ於テ公物ニ對スル所有權行使ハ制限セラルルモノニシテ學者カ公物ヲ不融通物ト云フハ即此ノ趣旨ヲ示スモノナリ。

ロ 公用徵收ノ制限 公物ハ夫レ自身公用ニ供セラルルモノニシテ他ノ公用ニ供スル爲ニ之ヲ徵收スルカ如キハ從來ノ公用ヲ妨クルノ結果ヲ生スルモノナリ。從テ公物ハ廢止セラルルニ非サレハ公用徵收ヲ受クルコト無ク其

ノ用途ヲ變更セムトスルニハ公物ノ管理機關ト協議シ之カ公用ヲ廢止シタル後ニ於テ爲スヘキナリ。

ハ 隣地者義務ノ制限 民法上ヨリスレハ隣地者相互間ニ於テハ其ノ權利行使ニ付一定ノ制限ヲ受クルモノナリト雖公物ニ付テハ其ノ公用ヲ妨クル程度ニ於テハ斯カル義務ヲ負ハサルモノトス。

ニ 境界査定權 公物タル土地ノ範圍ヲ決定スルハ即一定ノ物件ヲ公用ニ供スルト同様ノ行政作用ニ屬スルモノナルヲ以テ行政機關ヲシテ之ヲ決定セシムルヲ原則トシ司法裁判所ノ權限ニ屬セシメス。之蓋シ土地官民有區分ノ査定ヲ以テ訴願及行政訴訟ヲ提起シ得ヘキ事件ト爲セル所以ナルヘシ。

ホ 取得時効及強制執行ノ制限 公物ヲシテ其ノ所有者ヲ變更セシムルカ如キハ公用ヲ妨クルノ結果ヲ生スルヲ常トスルカ故ニ公物ニ付テハ其ノ所有權者ノ變更ヲ來スヘキ取得時効又ハ強制執行ノ規定ノ適用ヲ許サス。

ヘ 警察上及刑法上ノ保護 公物ノ侵害ハ直接ニ公用ヲ妨ケ公共ノ利益ヲ害スルコト重大ナルカ故ニ之カ爲ニ警察上及刑法上ニ於テモ特別ノ保護ヲ加



フルモノトス。彼ノ公物警察トハ即公物保護ノ爲ニ發現スル警察作用ヲ指  
スモノナリ

## 五 私有公物

公物ハ多クノ場合ニ於テ國家其ノ他ノ公法人ノ所有ニ屬スルモノナリト雖必  
シモ所有權ハ公法人ニ屬スヘキモノニ非サルコト曩ニ述ヘタルカ如シ。而シテ  
私人ノ所有ニ屬スル物件ニシテ公物タル性質ヲ有スル主ナルモノヲ舉クレハ凡  
ソ次ノ三種ナリ。

イ 借用公物 借用公物トハ國家其ノ他ノ公法人カ一定ノ借用權ニ基キ私有  
物ヲ公用ニ供スコトニ因リ成立スル公物ニシテ其ノ根據ヲ爲ス借用權ハ或  
ハ私法上ノ契約ニ因リ生スルコトアリ或ハ使用權ノ公用徵收ニ因リ生スル  
コトアリト雖何レモ國家其ノ他ノ公法人ハ此ノ借用權ニ基キ其ノ物ヲ公用  
ニ供スルモノニシテ其ノ結果之カ管理權ヲ取得スルモノナリ。而シテ一度  
公用ニ供セララルル以上ハ其ノ物ニ對スル私法上ノ所有權ハ制限ヲ受クルモ  
ノニシテ假令借用權消滅スルト雖當然所有者ノ自由處分ニ委ネラルルモノ

## 借用公物

## 公企業特 許物

ニ非ス。公用ヲ廢止セサル限りハ其ノ公物タル性質ヲ失フモノニ非ス。

ロ 公企業特許物 公企業上ノ設備ニ屬スル物件ハ固ヨリ公用ニ供セララルル  
コトラ公認セララルルモノニシテ公物タルノ性質ヲ有ス。從テ是等ノ物件ニ  
シテ特許企業者ノ所有ニ屬スル物ハ私有公物タルノ性質ヲ有ス。然レトモ  
公企業特許物ニ付テハ借用公物ト異リ其ノ管理權ハ國家其ノ他ノ公法人ニ  
屬スルモノニ非スシテ特許企業者ノ權利ニ留保セララルルモノナリ。其ノ公  
物タルノ特色ハ主トシテ公企業負擔ヲ受ケ各種ノ公法上ノ制限ニ服スルノ  
點ニ存ス。

ハ 公用制限物 公用制限物トハ公用ノ爲ニ一定ノ物上負擔ヲ負ハセラルル  
物件ヲ謂フ。固ヨリ私人ノ占有ニ屬シ其ノ自由ナル使用ニ供セララルルヲ原  
則トシ唯一定範圍ニ於テ公用ノ爲ニ其ノ權利行使ヲ制限セララルルニ過キ  
ス。而シテ公用制限ヲ加フルカ爲ニハ法律ノ根據ヲ必要トスルハ勿論ノ事  
ナリ。又制限ノ内容ニ付テハ或ハ不作爲義務ヲ負ハシムルモノアリ或ハ作  
爲義務ヲ負ハシムルモノアリ或ハ受忍ノ義務ヲ負ハシムルモノアリ或ハ特

## 公用制限 物



定ノ處分方法ニ對スル制限ナルコトアリ一々列舉ニ難シ。

## 第二章 公物ノ利用關係

公物ニハ公衆一般ノ使用ニ供セラルル公共使用物ト單純ニ公ノ用務ノ爲ニ供セラルル公用使用物トアルコト曩ニ述ヘタルカ如シ。而シテ公共使用物ニ在リテハ公衆一般ニ使用セラルルコトカ其ノ物ノ公ノ目的ヲ達スル所以ニシテ公衆ニ利用セラルルニ非スムハ何等公物トシテノ價值ヲ有スルモノニ非ス。之ニ反シテ公用使用物ニ在リテハ其ノ本質ニ於テハ公衆一般ノ使用ニ供セラルルモノニ非サルヲ以テ之ニ付公物主體ト一般私人トノ間ニ利用關係ヲ生スルハ敢テ公用使用物其ノモノノ目的トスル所ニ非ス。然レトモ公物ノ管理權ヲ有スル者ハ其ノ物ノ公用ヲ妨ケサル限リニ於テハ之ヲ一般人ノ使用ニ供スルモ何等差支無カルヘク此ノ趣旨ニ於テ公物其ノモノノ目的ノ範圍ニ屬セサル使用ヲ許スハ公共使用物タルト公用使用物タルトニ依リ差異アル可キニ非ス。而シテ公物ノ利用關係ニハ特別ノ法律原因ヲ必要トセサルモノト否ト在リ。前者ハ之ヲ自由使

自由使用  
物ノ利用

用ト謂ヒ自由使用物タル公共使用物ニ付テノミ認メラルル所タリ。後者ハ之ヲ特別使用ト謂ヒ許可使用物タル公共使用物ハ勿論自由使用物ニ付テモ其ノ通常ノ用方ヲ超ユル使用ニ付テハ特別使用ト爲ルヘク公用使用物ニ付テモ亦其ノ公用ヲ妨ケサル限リニ於テハ特別使用ヲ認メラルルコトアルモノトス。

### 一 自由使用ノ關係

自由使用物ニ付テハ公衆一般ハ何等ノ法律原因ヲ要セス又何等ノ反對給付ノ義務ヲモ負ハスシテ自由ニ之ヲ使用シ得ルモノニシテ一般公衆ノ有スル此ノ利益ハ單純ナル反射的利益タルニ止マリ敢テ法上ノ權利タル性質ヲ有スルモノニ非ス。一般人ハ唯消極的ニ自由使用物ノ利用ヲ違法ニ妨ケラレサルノ一般自由權ヲ有スルニ止マリ積極的ニ之カ使用ヲ主張シ得ルノ權利ヲ有スルモノニ非ス。從テ公物管理者カ一定ノ自由使用物ノ自由使用ヲ禁止シ又ハ制限スルコトアルモ一般公衆ハ權利侵害ヲ以テ對抗シ得ヘキモノニ非ス。

而シテ自由使用物ノ自由使用ヲ許容セラルル範圍ハ公物管理者ノ自ラ定ムル所ニシテ特ニ法規其ノ他ニ依リ之ヲ定メサル限リハ其ノ物ノ性質ニ基キ慣習又



ハ條理ニ依リ之ヲ決セサル可ラス。又自由使用ノ範圍ハ一般公衆ニ對シテ平等ニ之ヲ許サルルヲ原則トスト雖各人カ之ニ依リ受クル現實ノ利益ハ必シモ常ニ同一ナラス、自然ノ狀況及各人ノ個別的事情等ニ依リ厚薄アルコト尠カラス。就中道路、河川等ノ自由使用物ニ付テハ其ノ沿道又ハ沿岸居住者ハ最モ大ナル利益ヲ享受スルヲ常トスルナリ。

次ニ自由使用物ニ付公衆一般カ自由使用ノ利益ヲ享受スルハ其ノ管理者ニ於テ之ヲ自由使用ニ供スルカ爲ニシテ公物管理者ハ敢テ必ス自由使用ニ供セサル可ラサルノ拘束ヲ受クルモノニ非ス。自己ノ自由意思ニ基キ自由使用物ノ公用ヲ廢止シ又ハ制限スルコトヲ得ヘク必要アル場合ニ於テハ一時其ノ自由使用ヲ停止スルコトヲ得ルモノトス。彼ノ改修工事ノ爲ニ道路、河川ノ使用ヲ一時停止シ又ハ一層重要ナル用途ニ供スル爲ニ公園ヲ一時閉鎖スルカ如キハ即公物管理者カ屢々之ヲ行フ所ナリ。

次ニ國家ノ警察權ハ公物ニ對シテモ其ノ安全ヲ保護シ一般正當ナル使用ヲ確保スルカ爲ニ發現スルモノニシテ一般公衆ハ勿論公物管理者ト雖是等ノ警察制

自由使用  
可ト警察許

限ニハ之ニ服セサル可ラサルモノナリ。從テ一般公衆ハ其ノ自由使用ニ供セラレタル範圍内ニ在リテモ警察上一般ニ禁止セラレタル用方ニ付テハ別ニ警察官署ノ許可ヲ受ケサル可ラス。道路上ニ一時板圍ヲ爲シ、緣日ニ露店ヲ出シ、祭禮ニ山車ヲ曳クカ如キ行爲ニ付警察官署ノ許可ヲ受クルハ即之ナリ。又國家ハ警察上ノ必要アレハ自由使用物ニ付テモ其ノ自由使用ヲ一時停止スルコトヲ得ルモノニシテ斯カル自由使用ノ停止ハ公物管理權ニ基クモノト異リ常ニ警察官署ニ依リ之ヲ爲サルモノトス。火災ニ際シ道路ノ通行ヲ禁止シ、危險ナル橋梁ニ付其ノ通行ヲ禁止スルカ如キハ即之ナリ。

## 二 特別使用ノ關係

特別使用ノ關係トハ特別ノ法律原因ニ基キ之カ使用ヲ許サルルニ依リ生スル利用關係ニシテ其ノ中ニハ唯利用ノ自由ヲ許容スルニ過キサルモノト特ニ利用者ニ對シ權利ヲ設定スルモノトノ二種アルヘク後者ハ更ニ公法上ノ特許行爲ニ基クモノト私法上ノ契約ニ基クモノトノ二種ニ細別スルヲ得ヘシ。仍テ特別使用ノ關係ハ之ヲ特別使用ノ許容、特別使用權ノ特許及私法契約ニ依ル使用ノ三

特別使用



種ニ分チ以下分説スヘシ。

甲 特別使用ノ許容

特別使用ノ許容トハ公物ノ管理權者カ一定ノ條件ヲ具フル者ニ對シ其ノ使用ヲ許容スルコトニシテ其ノ性質ニ於テ何等權利ヲ設定スルモノニ非ス。而シテ特別使用ノ許容ハ主トシテ公用使用物ニ付認めラルル所ニシテ公共使用物ニ付特別使用ヲ爲サシムル場合ニハ多クハ使用權ヲ設定スルモノナリ。議會若ハ裁判所ノ傍聽ヲ許シ、選舉人名簿ノ縦覽ヲ許シ、練兵場ノ一部ノ使用ヲ許シ又ハ鎮守府司令長官ノ許可ニ依リ船舶カ軍港若ハ要港内ニ出入スルカ如キハ即何レモ此ノ種ニ屬ス。次ニ特別使用ノ許容ハ固ヨリ公物管理權ノ發動ニシテ之ヲ警察上ノ公物使用ノ許可ト混同スヘキニ非ス。特別使用ノ許容アリト雖警察上禁止セラレタル事項ハ之ヲ爲シ得ルモノニ非ス。然レトモ特別使用ノ許容ヲ得タル場合ニ於ケル使用者ニ對スル取締ハ警察官署ノ權限ニ委スルコト少ク多クノ場合ニ於テ公物管理者自ラ之カ秩序ヲ維持スルモノニシテ之即特別使用ノ許容ヲ得タル場合カ自由使用ノ場

合ト異ナルノ特色ナリ。

乙 特別使用權ノ特許

特別使用權ノ特許トハ特定人ノ爲ニ特別ノ使用權ヲ付與スルノ行爲ニシテ其ノ權限ハ公物管理者ニ專屬スル所ナリ。然レトモ特別使用權ノ特許ハ之カ特別使用ヲ爲シ得ルノ權利ヲ付與スルニ止マリ敢テ警察上ノ制限ヲ免除スルモノニ非サレハ特許ヲ受ケタル者カ現實ニ其ノ使用權ヲ行使スルニ當リテハ場合ニ依リ更ニ警察官署ノ許可ヲモ受ケサル可ラサルコト尠カラス。又公物ノ特別使用ノ特許ハ公物管理者ニ對シ之ヲ使用シ得ルコトヲ主張シ得ルノ公權ヲ設定スルニ止マリ第三者ニ對抗シ得ルノ私權ヲ設定スルモノニ非サレハ特許權者ハ之ヲ理由トシテ第三者ノ既得權ヲ侵害シ得ヘキニ非ス但シ漁業權ノ如ク特別ノ法律アルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス。次ニ特別使用權ノ特許ハ主トシテ許可使用物ニ付認めラルルノミナラス自由使用物ニ付テモ其ノ用方外ノ公用ニ付テハ此ノ特許ヲ以テセラルルヲ常トス。彼ノ入場料若ハ閱覽料ヲ支拂ヒタル一定ノ者ヲ博物館若ハ圖書館



等ニ入場セシメ、棧橋料若ハ通航料ヲ徴シ棧橋若ハ運河ノ使用ヲ許スカ如キハ前者ノ例ニニシテ道路上ニ軌道ノ敷設若ハ瓦斯管ノ埋設ヲ許シ又ハ電車待合所ノ建設ヲ許スカ如キハ後者ノ例ナリ。

而シテ特別使用權ノ特許ハ公物管理者ノ有スル支配權ノ一部ヲ付與スルモノナレハ管理權者ノ自由裁量ニ依リ之カ諾否ヲ決定スルヲ原則トシ其ノ拒否ニ對シテハ出願者ニ於テ故障ヲ申立テ得サルヲ常トス但シ法律上特別ノ規定アル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス。次ニ特許ハ特許ヲ受ケタル者ニ使用權ヲ付與スルモノナレハ管理權者ノ一方行爲ヲ以テ之ヲ爲シ得ルカ如シト雖多クノ場合ニ於テ公物ノ管理者ハ特別使用權ヲ付與スルト共ニ之カ特許權者ヲシテ幾多ノ義務ヲ負ハシムルモノナレハ通常兩當事者ノ合意ヲ以テ之ヲ爲スモノトス。特許權者ノ負フヘキ義務ノ内容ハ種々ナリト雖其ノ主ナルモノハ公物ノ維持保存ヲ爲スノ義務及使用料若ハ公納金其ノ他ヲ納付スルノ義務ノ二ナリ。而シテ總テ是等ノ義務ハ法律又ハ特許命令書ヲ以テ之ヲ定ムヘク特許後ニ於テ新ニ斯カル義務ヲ負ハシムルハ唯法律若ハ

特許命令書ニ於テ斯カル權限ヲ留保シ居タル場合ニノミ認メラルヘキモノナリ。

特別使用權ハ期限ノ滿了、特許ノ取消又ハ廢止、特許權ノ拋棄及公物ノ廢止等ニ依リ消滅スルノ外ハ特許權者ノ死亡ニ依リ消滅スルカ如キハ稀ナリ。蓋シ特別使用權ハ原則トシテ讓渡ヲ許スモノニシテ其ノ相續モ一般ニ認メラルル所ナレハナリ。

### 三 私法契約ニ依ル使用

公物ニ付テモ其ノ公用ヲ妨ケラレサル限度ニ於テハ私法ノ適用ヲ受クルヲ妨ケス。公物ノ管理權者ニシテ公法上ノ管理權ヲ有スルニ止マラスシテ私法上正當ノ權限ヲ有スル場合ニ於テハ其ノ公用ヲ妨ケサル範圍内ニ在リテ私法上ノ契約ヲ結ヒ其ノ使用ヲ許スハ何等差支アルモノニ非ス。公企業ノ設備ニシテ其ノ利用關係カ私法上ノ契約ニ屬スト認ムヘキ場合ニ於テ其ノ利用者ニ使用セララルハ即私法上ノ契約ニ基キ公物ノ使用權カ設定セララル著シキ場合タリ。彼ノ鐵道旅客カ列車ノ坐席ヲ使用シ、水道利用者カ

私法契約  
ニ依ル使  
用



水道附屬ノ器具ヲ使用スルカ如キ之ナリ。

而シテ單純ニ公物ノ使用カ私法契約ニ依リ認めラルルハ概ネ該公物ノ用方外ノ使用ニシテ其ノ公用ヲ妨ケサル限度ニ於テノミ認めラルルモノナリ。其ノ公用使用物ニ付認めラルル實例ハ電柱ニ廣告ヲ爲シ、列車内ニ食堂等ヲ貸付ケ、停車場内ニ賣店ヲ許スカ如キ之ニシテ其ノ公共使用物ニ付認めラルル實例ハ公園地ノ一部ヲ住宅トシテ賃貸シ、海濱ノ一部ヲ飲食店ニ貸付シ、道路公園等ノ樹木果實ヲ賣却シ、河川ノ土砂ヲ賣拂フカ如キ之ナリ。

### 第三章 主ナル公物

#### 第一節 道路法

##### 一 道路ノ意義及種類

道路ナル語ハ之ヲ廣ク用フレハ一般公衆ノ自由交通ニ供セラルル總テノ陸地ヲ汎稱スルコトヲ得ヘシト雖行政法上ニ於テ狹ク之ヲ用フルトキハ特ニ國家又

道路ノ意  
義

ハ其ノ他ノ公法人ニ依リテ其ノ一般公衆ノ自由交通ニ供セラルルコトヲ公認セラレタルモノ即公物タル性質ヲ有スルモノノミヲ指稱スルナリ。從テ土地所有者カ任意ニ一般公衆ノ自由交通ヲ許容スルニ過キササルモノハ之ヲ私道ト謂ヒ嚴正ノ意義ニ於ケル道路中ニ包含セシメス。私道ニ對シ嚴正ノ意義ニ於ケル道路ハ之ヲ公道ト稱ス。

而シテ一般交通ノ用ニ供スルコトヲ公認セラレタルモノ即公道ニ付テハ道路法ノ適用アリ(第一條)。道路法ニ依レハ道路ヲ分チテ國道、府縣道、郡道、市道及町村道ノ五種トシ(第八條)其ノ認定ハ一定ノ路線ニ付主務大臣、府縣知事、郡長、市長及町村長各之ヲ行フモノナリ(第十條乃至第十五條)。

仍ホ道路ヲ接續スル橋梁及渡船場、道路ニ附屬スル溝並木支壁柵道路元標里程標道路標識、道路ニ接スル道路修理用材料ノ常置場其ノ他命令ヲ以テ定メタル一定ノ附屬物件ニ付テハ命令ヲ以テ特別ノ定ヲ爲ササル限リハ道路法ノ適用アルモノトス(第二條)。

##### 二 道路ノ性質

公物法 第三章 主ナル公物



道路タルカ爲ニハ公衆ノ自由交通ニ供シ得ルノ狀況ニ在ルコト、正當ノ權限アル者ニ於テ之ヲ自由交通ニ供スルノ意思ヲ表示スルコト及一般公衆ノ自由交通ニ供スルモノトシテ公ニ認定セラルルコトノ三要件ヲ必要トスルコト勿論ナリト雖其ノ土地所有權ノ所在如何ハ敢テ之ヲ問フモノニ非ス。私有土地ト雖道路タルノ狀況ト所有者カ之ヲ道路トスルノ意思ト國家カ之ヲ公道トシテ認定シタルトノ三要件ヲ具備スレハ即道路ト爲ルモノナリ。然レトモ一度公道トシテ認定セラルルニ至レハ之ヲ構成セル敷地其ノ他ノ物件ニ付テハ一般ニ私權ノ行使ヲ許サス。唯所有權ノ移轉又ハ抵當權ノ設定若ハ移轉ヲ爲スカ如キ道路トシテノ用途ヲ妨ケサル私權ノ行使ノミヲ認ムルニ過キス（道路法第六條）。

而シテ道路經營ノ事業ハ總テ國家ノ事業ナリヤ又ハ一定ノ範圍ニ於テ公共團體ノ事業トシテ委任セラルルヤニ付テハ從來學者間ニ論爭絶エサル所ニシテ新道路法ノ下ニ於テモ必シモ明瞭ニ決定セラレタリト云フコトヲ得ス。蓋シ道路法第一條ニ於テハ道路ノ認定ヲ爲スハ行政廳ノ事務ナルコトヲ規定スト雖行政廳ト規定シ行政官廳ト規定セサルヲ見レハ其ノ第十條以下ニ於テ道路ヲ認定ス

ル府縣知事、郡長、市町村長ハ果シテ國家事務トシテ之ヲ行フヤ否ヤ明瞭ナラス又同法第十七條以下ニ於テ府縣知事、郡長、市町村長ヲ道路ノ管理權者ト定ムト雖是等ノ機關ハ將シテ國ノ機關トシテ之ヲ行フモノナリヤ明瞭ヲ缺クカ故ナリ。然レトモ我政府ノ取扱ハ道路ハ總テ國ノ營造物トシ府縣知事、郡長、市長及町村長カ之ヲ認定シ管理スル場合ト雖何レモ皆國ノ機關トシテ之ヲ行フモノト解シ來レリ。

### 三 道路ノ管理及維持

國道ハ府縣知事、其ノ他ノ道路ハ其ノ路線ノ認定者タル府縣知事、郡長、市長又ハ町村長ヲ以テ管理者トス但シ勅令ヲ以テ指定スル市ニ於テハ其ノ市内ノ國道及府縣道ハ市長ヲ以テ管理者トス（道路法第十七條）。管理者ハ道路ノ區域ヲ定メ道路臺帳ニ記入シ之ヲ一般ニ公示スヘキモノトス（第十九條、第三十條）。

道路ノ新設、改築、修繕及維持ハ管理者之ヲ爲スヲ原則トシ（第二十條）道路ト他ノ工作物ト效用ヲ兼ヌル場合又ハ其ノ他ノ特別ノ事由アル場合ニ於テハ管理者ハ工作物管理者、又ハ下級行政廳若ハ私人ヲシテ工事ヲ執行セシメ又ハ道



路ノ維持ヲ爲サシムルヲ得ヘク(第二十一條及第二十三條)、他ノ工事又ハ行爲ノ爲必要ヲ生シタル道路ニ關スル工事ニ付テハ工事執行者又ハ行爲者ヲシテ之ヲ執行セシムルコトヲ得ルモノトス(第二十二條)。

#### 四 道路ノ使用

道路ノ特別使用

道路ハ一般公衆ノ自由交通ニ供スルモノニシテ管理者ハ交通ヲ妨ケサル限度ニ於テノミ之カ占用ヲ許可又ハ承認スルコトヲ得ルニ過キス(第二十八條第一項)。是等ノ特別使用ニ付テハ管理者ハ占用料ヲ徵收スルヲ得ヘシ(第二十八條第四項)。ト雖道路ノ自由使用ニ對シテハ特別ノ料金ヲ徵收スルモノニ非ス。唯特別ノ事由アル場合ニ限り管理者自ラ橋錢又ハ渡錢ヲ徵收スル橋梁又ハ渡船場ヲ設クルヲ得ヘク(第二十七條)、管理者ニ非サル者ヲシテ一定期間ヲ限り橋錢又ハ渡錢ヲ徵收スル橋梁又ハ渡船場ノ設置ヲ許可又ハ承認スルヲ得ルニ止マルナリ(第二十六條)。

#### 五 道路ノ經費

主トシテ軍事ノ目的ヲ有スル國道其ノ他主務大臣ノ指定スル國道ノ新設又ハ

費

改築ニ要スル費用ニ付テハ之ヲ國庫ノ負擔トスト雖其ノ他ノ道路ニ關スル費用ニ付テハ管理者タル行政廳ノ統轄スル公共團體之ヲ負擔スルヲ原則トシ(第十三條)、唯國道及特別ノ事由アル其ノ他ノ道路ノ新設ハ改築ニ要スルモノニ限り國庫ヨリ其ノ一部ヲ補助スルコトヲ得シム(第二十五條)。而シテ管理者ハ道路法ノ定ムル一定ノ場合ニ於テハ道路ニ關スル費用ヲ下級團體又ハ一人私人ニ負擔セシメ又ハ負擔セシムルコトヲ得ルモノトス(第三十四條、第三十六條乃至第四十二條)。

仍ホ道路法ニ依レハ道路經營ニ付テハ管理者ハ一定ノ公企業特權ヲ有スヘク(第四十五條乃至第四十七條)沿道ノ土地、竹木又ハ工作物管理者其ノ他ニ對シ公物負擔又ハ公物制限ヲ加フルノ權限ヲ認ム(第四十八條及第四十九條)。加之道路法ニ依レハ一定ノ行爲ニ付テハ認可其ノ他ノ監督ヲ受ケシメ或種ノ行爲ニ付テハ各種ノ罰則ヲ附スルコトトシ更ニ一般私人ニ對シテハ訴願及行政訴訟ノ途ヲ開ケリ(第五十一條以下)。



## 第二節 河川法

河川ノ意

## 一 河川ノ觀念及河川法

河川トハ廣ク謂ヘハ河川敷ト流水ト依リ成ル總テノ施設ヲ指稱スト雖行政法上狹ク之ヲ用フレハ直接ニ公用ニ供セラルル河川ノミヲ指稱ス。而シテ斯カル河川ヲ構成スル流水ニ付テハ所有權ヲ認メ得ヘキヤ否ヤハ曾テ問題トセラレタル所ナリト雖人カ一定ノ限度ニ於テ流水ヲモ支配シ得ルハ現今ノ實際ニ徴シ明白ナル事實ナルヲ以テ其ノ所有權ノ客體ト爲リ得ヘキコト疑ナシ。從テ河川ニハ私有ニ屬スルモノト公有ニ屬スルモノト存在シ得ヘキコト明治七年太政官布告第二百二十號地所名稱區別ニ定ムルカ如シ。

次ニ河川ノ中公共ノ利益ニ重大ナル關係アルノニ付テハ特ニ河川法ノ規定アリ。如何ナル河川ヲ以テ公共ノ利益ニ重大ナル關係アルモノト認メ河川法ヲ適用スヘキヤハ即主務大臣ノ認定スル所ニシテ(河川法第一條)其ノ區域ハ地方行政廳之ヲ認定ス(同法第二條)。仍ホ河川ノ支川若ハ派川又ハ堤防、護岸、水制、

河川法ノ適用範圍

河津、曳船道其ノ他河川ノ附屬物トシテ地方行政廳ニ於テ認定セラレタルモノニ付テハ命令ヲ以テ特別ノ規程ヲ設ケタル場合ヲ除クノ外ハ總テ河川ニ關スル規程ニ從フヘク(同法第四條)河川ニ流入シ若ハ河川ヨリ分岐スル水流若ハ水面又ハ河川法ノ認定ヲ受ケサル河川ニ付テモ命令ノ定ムル所ニ從ヒ河川法ノ規定ヲ準用スルヲ得ルモノトス(同法第五條)。

次ニ河川法ノ支配ヲ受クヘキ河川並其ノ敷地若ハ流水ニ付テハ河川法ハ之ヲ私權ノ目的トナスヲ許サス(河川法第三條)。從テ其ノ公有ニ屬スルコトニ付テハ何等ノ疑ナシト雖進ンテ河川カ國家ノ公有ニ屬スルヤ又ハ公共團體ノ公有ニ屬スルヤニ付テハ議論アル所ナリ。然レトモ河川法ニ於テハ河川ノ認定ヲ爲シ管理ヲ爲スノ權ヲ以テ地方行政廳ノ權限ニ屬セシムルヲ見レハ現行制度上ハ國有主義ヲ採ルモノト解スルヲ隱當トス。

## 二 河川ノ管理及使用

河川ノ管理權ハ其ノ地域ヲ管轄スル地方行政廳ニ屬スルヲ原則トシ地方行政廳ハ河川臺帳ヲ調製シ原則トシ河川ニ關スル工事ヲ施行シ其ノ維持ヲ爲スノ

河川ノ管理



河川ノ特  
權使用

義務ヲ負ヒ其ノ費用ヲ負擔スルモノトス（河川法第六條乃至第十五條及第二十四條乃至第三十六條）。而シテ河川ハ一般公衆ノ自由使用ニ供セラルヘキ性質ヲ有シ其ノ主ナル用方タル舟筏ノ通航及流水ニ關シテハ命令ヲ以テ各種ノ制限ヲ爲シ得ルモノトス（河川法第十六條）。

然レトモ普通ノ自由使用ノ範圍ヲ超ユル場合ニ於テハ地方行政廳ヨリ特別使用ノ特許ヲ受クルヲ必要トスルハ勿論ノ事ニシテ河川法ニ依レハ一定ノ目的ヲ以テ工作物ヲ新築、改築又ハ除却セムトスル者ハ地方行政廳ノ許可ヲ受ク可ク（同法第十七條）、河川ノ敷地若ハ流水ヲ占用セムトスル者ニ付亦同シ（同法第十八條）。仍ホ河川法ニ依レハ流水ノ方向、清潔、分量、幅員若ハ深淺又ハ敷地ノ現狀等ニ影響ヲ及ホスノ虞アル工事、營業其ノ他ノ行爲ニ付テハ命令ヲ以テ之ヲ禁止若ハ制限シ又ハ地方行政廳ノ許可ヲ受ケシムルコトヲ得ルモノトス（第十九條）。是等ノ特許ニ依リ得タル權利ハ固ヨリ公權ノ一種ニ屬スルモノニシテ地方行政廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ他人ニ移轉シ得ルモノニ非ス（第二十一條）。特許權者ハ特許ト同時ニ法律又ハ特許行爲ニ依リ命セラレタル各種ノ

河川管理  
者ノ特權

義務ヲ負フヘク河川管理者ハ河川ノ使用又ハ占用ノ反對給付トシテ使用料又ハ占用料ヲ徵收シ得ルモノトス（第四十二條）。次ニ私人又ハ府縣内ノ下級公共團體ニ於テ舟筏ノ便ヲ謀ル爲メ自己ノ費用ヲ以テ河川ニ新築又ハ改築ノ工事ヲ施行スルトキニハ府縣知事ハ三十ヶ年以内ノ期間ヲ定メ通航料ノ徵收權ヲ付與スルヲ得ルモノトス（第四十三條）。

次ニ河川ノ管理者タル地方行政廳ハ各種ノ特權ヲ有シ或ハ工事ニ必要ナル土石砂礫其ノ他ノ供給ヲ命シ（第三十八條）或ハ附近ノ土地ヲ使用シ障害物ヲ除却シ（第三十九條）或ハ洪水防禦ノ爲ニ應急負擔ヲ命シ若ハ下級公共團體ニ對シ其ノ準備ヲ命シ得ルモノトス（第二十三條）。仍ホ河川法ニ依レハ河川附近ノ土地及工作物ノ所有者ハ河川ノ公益ヲ保全シ公衆ヲ防禦スルカ爲ニ法律命令ノ定ムル所ニ依リ或ハ土地ノ使用ヲ受忍シ或ハ一定ノ施設ヲ爲ス等幾多ノ公物負擔ヲ命セラルルモノトス（第四十五條乃至第四十八條）。

## 三 其ノ他ノ公水ニ關スル法制

河川法ニ依ラサル河川、湖沼、其ノ他ノ公水ニ付テハ精密ナル統一の成文法

其ノ他ノ



規ノ存スルモノ無ク其ノ法律關係ハ概ネ條理ト慣習トニ依リ之ヲ決定セラレ。公有水面ノ埋立ニ關シテハ官有地取扱規則ナル勅令ニ規定アリ。公有水面ノ埋立ヲ爲サムトスル者ハ其ノ特許ヲ受ク可ク、埋立ノ特許ハ一面ニ於テ公物ノ特別使用及公企業ノ特許ナルト同時ニ他面ニ於テ其ノ公用ヲ廢止シ埋立ヲ條件トシテ有償又ハ無償ニ所有權ヲ移轉スルモノナリ。

此ノ外公水ノ利用ヲ保全スルカ爲ニハ砂防法ノ規定アリ。運河ニ付テハ運河法ノ規定アリ。港灣中特ニ重要トスル開港ニ付テハ開港規則ナル勅令アリ。航路ノ安全ヲ期スルカ爲ニハ航路標識條例ナル勅令アリ。上水道及下水道ニ付テハ夫レ夫レ水道條例及下水道法ナル法律アリ。水利土功ノ爲ニ設ケラルル公共組合ニ付テハ水利組合法及北海道士功組合法等アリ。一々茲ニ述ヘス。

## 第四編 公用徵收法

### 第一章 公用徵收ノ觀念

公用徵收ノ意義

公用徵收トハ一定公益事業ノ爲ニ公權力ニ依リ補償ヲ與ヘテ特定ノ財產權ヲ徵收シ之ヲ該事業ノ經營者ニ付與スルノ權力作用ナリ。

一 公用徵收ハ一定ノ公益事業ノ爲ニ行ハルルモノナリ。

目的タル事業

公用徵收ヲ認ムル公益事業ノ種類ニ付テハ土地收用法其ノ他ノ法律ニ之ヲ規定シ具體的個々ノ事業ニ付將シテ公用徵收ヲ許スヘキヤ否ヤハ即原則トシテ内閣ニ於テ之ヲ認定ス。而シテ爰ニ公益事業トハ敢テ所謂公企業ニ限ラルルモノニ非ス、私人ノ自由ニ經營スル瓦斯事業ノ如キニ付テモ亦公用徵收ヲ認メラルルモノトス。然レトモ彼ノ軍事徵發ノ如キハ多クハ不特定物ニ對スルノミナラス假令特定物ニ對シ之ヲ行フ場合ト雖其ノ目的トスル所ハ軍事上ノ必要ニ存シ特定ノ公益事業ノ爲ニスルモノニ非サレハ之ヲ公用徵收ノ一種ニ加フハ適當ナラス。



公用徵收  
ト賣買ト  
ト相違

二 公用徵收ハ補償ヲ與ヘテ特定ノ財産權ヲ徵收スル權力作用ナリ。

公用徵收ハ國家ノ單獨意思ニ依リ成立スル權力作用ニシテ其ノ内容ニ於テ幾多ノ行政處分ヨリナルモノナリ。之即公用徵收ト賣買トノ相違スル根本的性質ニシテ公用徵收ハ斯クノ如ク單獨行爲ヲ以テ特定ノ財産權ヲ剝奪制限スルモノナルカ故ニ必ス法律ノ根據ニ基カサル可ラサルモノナリ。次ニ公用徵收ハ特定ノ財産權ヲ目的スルモノニシテ其ノ財産價值ヲ目的トスルモノニ非ス。此ノ點ニ於テ公用徵收ハ租稅ト其ノ性質ヲ異ニシ人格權又ハ反射的利益ノ收取トモ相違ス。然レトモ公用徵收ハ財産權自體ヲ收取スルモノナレハ單純ナル權利ノ制限又ハ警察上ノ制限ト同一ニ非ス。而シテ公用徵收ハ特定ノ財産權ノ收取ヲ目的トシ財産價值ノ取得ヲ目的トスルモノニ非サルカ故ニ權利者ニ對シ財政上ノ損失ヲ與フハキ性質ヲ有セス。之即公用徵收ヲ爲スニハ補償ヲ與フル所以ニシテ補償ハ公用徵收ノ要件ヲ爲スモノナリ。

三 公用徵收ハ公益事業ノ經營者ニ對シ特定ノ財産權ヲ付與スル行爲ナリ。

公用徵收ハ一面ニ於テ被徵收者ヨリ特定ノ財産權ヲ剝奪スルト共ニ他面ニ於

公用徵收  
ト租稅ト  
ト相違

專業經營

者ニ財產  
權ノ付與

テ之ヲ公益事業ノ經營者ニ付與スルモノナリ。耕地整理法ニ依ル耕地ノ強制整理ノ如キハ此ノ點ニ於テ公用徵收ト其ノ性質ヲ異ニスルモノナリ。又公用徵收ハ具體的個々ノ場合ニ付行ハルル行政處分ナレハ法律ノ規定ニ依リ直接ニ權利ヲ剝奪又ハ制限スルカ如キハ公用徵收ニ屬セス。

## 第二章 公用徵收ノ當事者及客體

### 一 公用徵收ノ主體及其ノ權利

公用徵收ハ國家ノ單獨意思ヲ以テ成ル權力作用ニシテ其ノ權能ハ即國家ニ專屬ス。公用徵收ナル權力作用ノ主體ヲ爲スモノハ常ニ國家ニシテ公益事業ノ經營者ノ如キハ其ノ利益ヲ享受スルニ止マリ權力作用自體ノ主體ヲ爲スモノニ非ス。而シテ公用徵收ナル權力作用ハ公用徵收ナル權力作用ヲ實行スルコトヲ決定スル行爲ト其ノ結果トシテ生スル各種ノ義務ノ履行ヲ強制スル行爲トノ二種ニ分ツヲ得ヘク、前者ニ屬スル權利ハ之ヲ裁決權ト謂ヒ後者ニ屬スル權利ハ之ヲ執行權ト謂フ。何レモ國家ニ專屬スト雖其ノ權限ニ付テハ裁決權ハ內閣之ヲ

裁決權ト  
執行權ト

公用徵收  
ノ主體



行ヒ執行權ハ地方長官之ヲ行フヲ原則トス。

## 二 公用徵收ノ受益者及其ノ權利

公用徵收ハ特定ノ公益事業經營者ノ爲ニ認メラルル所ニシテ事業經營者カ公用徵收ニ付有スル權利ニハ請求權ト受益權トノ二種アリ。請求權トハ公用徵收ナル權力作用ノ行使ヲ國家ニ對シ請求スル公權ニシテ特定ノ公益事業ノ經營者ハ其ノ事業經營ノ爲ニ公用徵收ヲ必要トスルノ事實發生スレハ之ト共ニ當然請求權ヲ取得スルモノトス。次ニ受益權トハ公用徵收ナル國家ノ權力作用ノ效果トシテ事業經營者カ取得スル各種ノ權利ヲ總稱スルモノニシテ其ノ發生時期ハ權利ノ種類ニ依リ同一ナラス、徵收手續ノ進行ト共ニ強キ權利ヲ取得スルモノナリ。而シテ受益權ハ要スルニ特定ノ公益事業ノ爲ニ其ノ事業ノ經營者ニ認メラレルモノナルカ故ニ事業ノ移轉ト共ニ其ノ承繼人ニ當然移轉スヘキヲ其ノ性質トス。(土地收用法第三條)

## 三 公用徵收ノ客體

公用徵收ハ特定ノ公益事業ノ爲ニ必要缺ク可ラサル特定ノ財産權ヲ第三者ヨ

公用徵收  
ノ受益者

請求權ト  
受益權ト

公用徵收

ノ目的物  
ノ性質

リ剝奪シ事業經營者ニ付與スルノ作用ナリ。其ノ客體ハ常ニ事業經營上缺ク可ラサル特定財産權タルヲ必要トシ容易ニ他ヲ以テ代ヘ得ヘキ物件ニ付テハ公用徵收ヲ認メス。從テ公用徵收ノ客體ハ最モ多クノ場合ニ於テ不動産殊ニ土地所有權ナルヲ常トシ動産ノ如キハ唯不動産ニ附隨スル場合ニ於テノミ公用徵收ノ目的物トナルモノナリ。然レトモ苟モ公用徵收ヲ爲スヘキ必要アレハ敢テ必シモ土地所有權ニノミ限ルヘキニ非ス。之即土地收用法ニ於テ水ノ使用ニ關スル權利其ノ他土地ニ關スル所有權以外ノ權利ノ收用又ハ使用ヲ爲ス場合並ニ土地ニ屬スル石、砂礫ノ收用ヲ爲ス場合ニ付土地收用法ノ規定ヲ準用スル所以ナリ(第七條及第八條)。此ノ外特許法ニハ特許權ノ收用ヲ規定シ地方鐵道法及軌道法ニハ地方鐵道又ハ軌道ニ屬スル企業權及物件ノ收用ヲ規定ス。斯クノ如ク公用徵收ノ客體タル特定ノ財産權ハ不動産所有權ナルヲ通常トスレトモ之ニ限ラス。動産所有權、所有權以外ノ物權、特許權其ノ他ノ無體財産權、特許企業權及公物ノ特別使用權並ニ特定物ヲ目的トスル賃借權其ノ他ノ債權モ亦稀ニハ公用徵收ノ目的物タルモノナリトス。



次ニ公用徴收ノ目的ハ特定ノ財産權ヲ事業經營者ニ付與スルニ在ルヲ以テ其ノ客體タル財産權ハ事業經營者ニ屬セサルコトヲ前提トスルモノナリ。國家事業ノ爲ニ國有地ヲ徴收スト云フカ如キハ是ヲ想像スルヲ得ス、國有地ニ對シ公用徴收ヲ行ヒ得ルハ唯事業經營者カ國家以外ノ者タル場合ニ限ル。次ニ公物ニ付テハ既ニ夫レ自體公用ニ供セラレ居ルモノナレハ其ノ公用ヲ廢止セラルル迄ハ之ヲ公用徴收ノ客體ト爲シ得サルモノナリ。然レトモ公用徴收ニ依ル權利取得ハ後ニ述フルカ如ク原始的取得ニ屬スルモノナレハ其ノ目的物ハ敢テ賣買シ得ルモノナルコトヲ必要トセス。

### 第三章 土地收用ノ手續

公用徴收ノ一般法タル土地收用法ニ基キ手續ノ大體ヲ述フレハ凡ソ次ノ如シ。

#### 事業ノ認定

##### 一 事業ノ認定

特定ノ公益事業ノ經營者カ一定ノ土地ヲ收用又ハ使用セムトスル場合ニハ先

#### 公告又ハ通知

事業計畫書及圖面ヲ添ヘ地方長官ヲ經由シテ内務大臣ニ申請スヘク内務大臣ハ之ヲ審査シタル後内閣ニ提出スルモノトス但シ事業ノ經營ヲ爲サントスル者カ宮内省又ハ國ナルトキハ宮内大臣又ハ主務大臣ニ於テ事業計畫書及圖面ヲ添ヘ内務大臣ニ協議シテ之ヲ内閣ニ提出スルモノトス(第十三條)。内閣ニ於テハ此ノ申請書ニ基キ徴收ヲ許サルヘキ公益事業ナリヤ否ヤ並當該事業ニ付收用又ハ使用ヲ認ムルノ必要アリヤ否ヤヲ認定スルモノトス(第十二條)。然レトモ軍機ニ關スル事業ニ付テハ主務大臣自ラ公用徴收ノ必要アリヤ否ヤヲ決定スヘク(第十二條但書)天災事變ニ際シ急施ヲ要スル事業ノ爲六ヶ月以内ニ於テ土地ヲ使用セムトスル場合ニ付テハ事業經營者ハ事業ノ種類、使用スヘキ土地ノ區域及使用ノ期間ヲ定メ郡市長ニ之ヲ申請スヘク郡市長ニ於テ之ヲ認定スルモノトス(第十五條第一項及第十六條)。

##### 二 公告又ハ通知

内閣ニ於テ事業ノ認定ヲ爲シタルトキハ起業者及事業ノ種類並起業地ヲ公告ス可ク(第十四條)起業者カ公告ノ後三ヶ月内ニ地方長官ニ對シ收用又ハ使用ノ



申請ヲ爲ササルトキハ認定ハ其ノ效力ヲ失フモノトス(第十八條)。起業者ニ於テ申請アレハ地方長官ハ收用又ハ使用スヘキ土地ノ細目ヲ定メ之ヲ公告シ又ハ之ヲ土地所有者及關係人ニ通知スヘク(第十九條第一項)若シ軍機ニ關スル事業ニ付テノ公用徴收ナレハ主務大臣ニ於テ其ノ公用徴收ヲ爲スノ意思ヲ決定スルト共ニ直ニ地方長官ニ收用又ハ使用スヘキ土地ノ細目ヲ通知シ地方長官ハ之ヲ土地所有者及關係人ニ通知スルモノトシ(第十九條第二項)是等ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後一月内ニ起業者カ收用審査會ノ裁決ヲ求メサルトキハ其ノ公告又ハ通知ハ效力ヲ失フモノトス(第二十四條)。次ニ天災事變ニ際シ郡市長ニ於テ土地ノ使用ヲ認定シタルトキハ起業者、事業ノ種類、使用スヘキ土地ノ區域及使用ノ期間ヲ土地所有者及占有者ニ通知スヘキモノトシ(第十七條第一項)軍事上急施ヲ要スル事業ノ爲土地ヲ使用スルトキハ主務大臣ハ使用スヘキ土地ノ區域ヲ郡市長ニ通知スヘク郡市長ハ使用スヘキ土地ノ區域又ハ使用ノ區域ヲ土地所有者及占有者ニ通知スルモノトス(第十五條第三項及第十七條第二項)。

## 土地ノ立

## 三 土地ノ立入權

## 入權

抑モ起業者カ事業準備ノ爲他人ノ土地ニ立入り測量又ハ検査ヲ爲シ得ルノ權能ハ唯前述ノ地方長官ノ公告又ハ通知アリタル後ニ於テノミ之ヲ認ムヘク(第九條第三項)其ノ以前ニ於テ起業者カ是等ノ行爲ヲ爲スニハ事業ノ種類及立入ルヘキ土地ノ區域ヲ定メ地方長官ノ許可ヲ受ケサル可ラス但シ宮内省又ハ國ノ起業ニ係ルトキハ宮内大臣又ハ主務大臣ヨリ地方長官ニ通知スレハ足ルモノトス(第九條第一項)。仍ホ地方長官ニ於テ此ノ許可ヲ與ヘ又ハ通知ヲ受ケタルトキハ起業者、事業ノ種類及立入ルヘキ土地ノ區域ヲ公告シ又ハ之ヲ土地占有者ニ通知スルモノトス(第九條第二項)。次ニ地方長官ノ公告又ハ通知ノ前後ヲ問ハス起業者カ現實ニ他人ノ土地ニ立入ルニハ更ニ立入ルヘキ日ヨリ五日前ニ其ノ日時及場所ヲ市町村ニ通知スヘク、市町村長ハ之ヲ公告シ又ハ其ノ土地占有者ニ通知スルモノトシ、邸内ニ立入ル場合ニ於テハ豫メ起業者ヨリモ其ノ占有者ニ通知スルヲ要スヘク仍ホ日出前日没後邸内ニ立入ルニ付テハ特ニ行政官廳ノ許可ヲモ受ケサル可ラス(第十條)。然レトモ是等ノ條件ヲ具ヘテ測量又ハ検査ヲ爲スニ當リテハ行政廳ノ許可ヲ得テ障害物ヲ除去スルヲ得ヘキモノナリ但



シ起業者ハ其ノ三日前に於テ所有者及占有者ニ之ヲ通知セサル可ラス（第十一條）。

之ニ反シテ地方長官カ土地ノ細目ヲ公告シ又ハ通知シタル後ニ於テハ起業者ハ其ノ土地ニ立入り測量検査ヲ爲シ土地物件ヲ調査スルノ權利ヲ有スルモノニシテ起業者カ現實ニ立入ラントスルニハ三日前に其ノ日時及場所ヲ土地占有者ニ通知スヘキモノトス但シ日出前日没後ハ占有者ノ承諾アルニ非サレハ邸内ニ立入ルコトヲ得ス（第二十條）。

#### 四 調書及協議

土地ノ細目ニ付地方長官ノ公告又ハ通知アリタル後ハ起業者、土地所有者又ハ關係人ハ一定ノ手續ニ依リ協議シテ土地物件ニ關スル調書ヲ作成スルヲ得ルモノトス（第二十一條）。而シテ地方長官ノ公告又ハ通知アレハ起業者ハ其ノ土地ニ關スル權利ヲ取得スルカ爲ニ土地所有者及關係人ニ對シ徵收スヘキ土地ノ收用及補償額並徵收時期等ニ付協議スヘキモノニシテ協議調ハサルトキ又ハ協議ヲ爲シ能ハサルトキハ收用審査會ノ裁決ヲ求ムヘキモノトス（第二十二條）。

調書ノ作成

然レトモ天災事變ニ際シ急施ヲ要スル爲郡市長ニ於テ土地ノ使用ヲ認定シ又ハ軍事上臨時急施ヲ要スル事業ニ付土地ヲ使用スル場合ニ於テ郡市長カ通知ヲ受ケ之ニ基キ土地所有者及占有者ニ對シ一定ノ通知ヲ爲シタル後ハ直ニ起業者ヲシテ其ノ土地ヲ使用セシムルコトヲ得ルモノトス但シ損失ノ補償ニ付テハ協議ヲ爲スヘキモノナリ（第二十三條）。

#### 五 收用審査會ノ裁決

土地收用審査會ハ地方長官ヲ會長トシ高等文官及府縣名譽職參事會員各三人ヲ以テ組織スル合議機關ニシテ内務大臣ノ監督ヲ受ケ一定ノ手續ニ依リ收用又ハ使用スヘキ土地ノ區域、損失ノ補償、收用ノ時期又ハ使用ノ時期及期間ニ付裁決ヲ爲スモノナリ（第二十五條乃至第四十六條）。而シテ起業者ニ於テ收用審査會ノ裁決ヲ申請セムトスルニハ一定ノ書類ヲ添へ地方長官ニ之ヲ申請スルト共ニ土地所有者及關係人ニ其ノ旨通知スルモノトシ（第二十三條）地方長官ニ於テ其ノ申請ヲ受ケタルトキハ書類ヲ市町村長ニ下付スヘク市町村長ハ豫メ公告シテ一週間之ヲ公衆ノ縦覽ニ供スヘキモノトス（第二十四條）。土地所有者及關

收用審査會ノ職務



係人ハ縦覽期間ノ初日ヨリ二週間内ニ地方長官ニ意見書ヲ差出スコトヲ得ヘク  
 (第二十五條)地方長官ハ此ノ期間經過後ニ於テ收用審査會ヲ開クヘキモノトス  
 (第二十六條)。次テ收用審査會ハ原則トシテ開會ノ日ヨリ一週間内ニ裁決ヲ爲  
 スヘキモノニシテ(第二十七條)其ノ期間ヲ經過スルモ審査會其ノ裁決ヲ爲ササ  
 ルトキハ地方長官ハ事情ヲ具シ内務大臣ノ指揮ヲ請フヘク、内務大臣ハ收用審  
 査會ニ一定期間内ニ裁決スヘキヲ命シ又ハ之ニ代リテ裁決ヲ爲スヘキヲ地方長  
 官ニ命スルヲ得ルモノトシ仍ホ審査會裁決ヲ爲ササルトキハ地方長官自ラ之カ  
 裁決ヲ與フルモノトス(第二十八條)。審査會カ召集ニ應セス又ハ成立セザルト  
 キハ地方長官ハ内務大臣ノ認可ヲ得テ之ニ代リテ裁決ヲ爲スコトヲ得ヘク、事  
 業ノ急施ヲ要スルトキ亦同シトス(第二十九條)。收用審査會カ裁決ヲ爲シタル  
 トキハ裁決書ノ謄本ヲ添ヘ地方長官ニ報告スヘク、地方長官其ノ報告ヲ受ケ又  
 ハ自ラ代リテ裁決ヲ爲シタルトキハ裁決書ノ謄本ヲ起業者、土地所有者及關係  
 人ニ送達スルモノトス(第三十條、第三十一條)。

#### 第四章 被徵收者ノ權利

被徵收者トハ公用徵收ニ因リ徵收セラルヘキ財産權ノ主體ニシテ土地所有者  
 ヲ始メ徵收ノ客體ニ付權利ヲ有スル總テノ者ヲ包含スルモノナリ。而シテ土地  
 收用法ニ基キ被徵收者ニ屬スヘキ各種ノ權利ヲ舉クレハ凡ソ次ノ如シ。

##### 一 協議ヲ受クルノ權及意見書提出ノ權

公用徵收ヲ爲スニ付事業ノ認定ヲ受ケタル場合ニ於テハ起業者ハ其ノ權利ヲ  
 取得スルカ爲ニ土地所有者其ノ他ノ權利者ト協議ヲ爲スヲ原則トシ被徵收者ハ  
 之ヲ受クヘキノ權利ヲ有ス(第二十二條)。又協議調ハス若ハ協議シ能ハサルニ  
 依リ起業者ニ於テ收用審査會ノ裁決ヲ求メタルトキニハ被徵收者ハ一定期間内  
 ニ意見書ヲ地方長官ニ提出シ得ルノ權利ヲ有ス(第二十五條)。

##### 二 徵收區域擴張ノ請求權

徵收セラルヘキ範圍ハ起業ノ爲ニ必要ナル程度ニ限ラルヘキヲ原則トスト雖  
 徵收ノ結果被徵收者ヲシテ過度ノ損失ヲ受ケシムルカ如キハ公用徵收ノ目的上

協議ヲ受  
 クルノ權

意見書提  
 出ノ權

徵收區域  
 擴張ノ請  
 求權



適當ニ非サルヲ以テ土地收用法ハ次ノ如キ一定ノ場合ニ限り被徵收者ヲシテ地域擴張ノ請求ヲ爲スヲ得シム。

イ 土地ノ一切ヲ收用スルニ因リテ殘地ヲ從來用ヒタル目的ニ供スルコト能ハサルニ至リタルトキハ其ノ全部ノ收用ヲ請求シ得(第五十條)。

ロ 收用又ハ使用スヘキ土地ニ在ル物件ニシテ移轉セハ從來ノ目的ニ供シ得サルニ至ルトキ又ハ移轉費用カ其ノ相當價格ヲ超ユルトキハ其ノ物件ノ收用ヲ請求スルヲ得(第五十一條第二項及第五十二條)。

ハ 土地ノ使用ニシテ三年以上ニ亘リ若ハ土地ノ形質ヲ變更シ又ハ使用スヘキ土地ニ建物アルトキハ其ノ土地ノ收用ヲ請求シ得但シ空間ヲ使用スル場合ニ於テ土地ノ使用ヲ妨ケサルトキハ此ノ限ニ在ラス(第五十五條)。

### 三 補償金ノ請求權

被徵收者タル土地所有者及利害關係人ハ企業者ニ對シ其ノ受クル損失ニ付補償金ヲ請求スル權利ヲ有ス。補償金ノ交付ハ公用徵收ノ内容ヲ爲スモノニシテ其ノ性質ニ於テ損害賠償ト異ナリ損害ヲ前提トシテ第二次的ニ發生スルモノニ

補償金ノ  
請求權

補償額ノ

範圍

非ス。而シテ補償額ノ決定方法ニ付テハ土地收用法ハ個別的各人別ノ見積ヲ原則トシ之ニ依リ難キ場合ニ於テノミ總括的ノ見積ヲ許スモノトス(第四十七條)。次ニ同法ニ依レハ補償ノ範圍ハ凡ソ次ノ如クニシテ之ニ基キ企業者ハ具體的各場合ニ付被徵收者ト協議シテ現實ノ補償額ヲ確定スヘク協議調ハサルトキハ乃チ收用審査會ニ申請シテ其ノ裁決ヲ受クルモノトス。

イ 收用又ハ使用スヘキ土地物件ノ相當價格(第四十八條)

ロ 土地ノ一部ノ收用又ハ使用ニ在リテハ殘地ニ關スル損失(第四十九條)

ハ 收用又ハ使用スヘキ土地ニ在ル建物其ノ他ノ物件ノ移轉料但シ物件ノ分割ヲ來ス爲從來ノ用途ニ供シ得サルニ至ルトキハ全部ノ移轉料(第五十一條)

ニ 土地ノ收用又ハ使用ニ因リ通路、溝渠、塙柵其ノ他ノ工作物ノ新築、改築、増築又ハ修繕ヲ爲ス必要ヲ生シタルトキハ其ノ費用(第五十三條)

ホ 其ノ他土地所有者及關係人ノ通常受クヘキ損失例ハ營業ノ閉止ニ伴フ損失、移轉地ノ購入費等(第五十四條)



其ノ他ノ  
損失ニ對  
スル補償

仍ホ企業者カ地方長官ノ認可ヲ受ケテ事業準備ノ爲土地ニ立入り又ハ地方長官カ土地ノ細目ニ付公告若ハ通知ヲ爲シタル後實施調査ノ爲土地ニ立入り測量、検査又ハ調査ヲ爲スニ因リテ他人ニ及ホシタル損失並地方長官カ土地ノ細目ヲ公告又ハ通知ノ後企業者カ事業ヲ廢止又ハ變更シタルニ因リテ土地所有者又ハ關係人ノ受ケタル損失ニ付テハ何レモ之ヲ補償スルヲ要シ是等ニ付協議調ハサルトキハ地方長官ノ決定ヲ求ムヘキモノトス（第五十七條乃至第五十九條）。然レトモ地方長官カ土地ノ細目ヲ公告又ハ通知シタル後ハ土地所有者及關係人ハ紊リニ其ノ土地物件ニ變更ヲ加フルヲ得サルモノニシテ若シ行政廳ノ認可ヲ得スシテ土地ノ形質ヲ變更シ又ハ工作物ノ新築、改築、増築若ハ大修繕ヲ爲シ又ハ物件ヲ附加、増置シタル場合ニハ之ニ付テハ損失ノ補償ヲ請求シ得サルモノトス（第五十六條）。

買戻權

#### 四 買戻權

土地收用法ニ依レハ收用ノ時期ヨリ二十箇年内ニ事業ノ廢止其ノ他ノ事故ニ因リテ收用シタル土地ノ全部又ハ一部カ不用ニ歸シタルトキハ舊所有者又ハ其

ノ相續人ハ補償價格ヲ以テ之ヲ買受クルコトヲ得ルモノトス（第六十六條第一項本文）。企業者ハ舊所有者又ハ其ノ相續人ヲシテ此ノ買戻權ヲ實行スルノ機會ヲ失ハシメサルカ爲ニ不用ノ土地アルトキハ之ヲ通知スルヲ必要トス但シ企業者ニ過失ナクシテ權利者ヲ確知スルコト能ハサルトキハ少クトモ三回ノ公告ヲ爲スヲ以テ足ル。而シテ權利者ニ於テ此ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ二箇月内又ハ第三回ノ公告終了ノ日ヨリ六箇月内ニ買受ノ通知ヲ爲ササルトキハ其ノ權利ヲ失フモノトス（第六十七條）。然レトモ土地所有者ノ請求ニ因リ殘地ヲモ收用シタル場合ニハ其ノ接續部分ノ不用ニ歸シタル時ニ非サレハ買戻權ヲ生セス（第六十六條第一項但書）。又土地ヲ他ノ軍機ニ關スル事業又ハ内閣ノ認定シタル事業ニ供スルトキハ不用ニ歸シタルモノト看做ササルモノトス（第六十六條第二項）。

而シテ斯クノ如キ買戻權ヲ認ムル所以ハ全ク被收用者ノ土地ニ對スル主觀的價值ヲ尊重スルノ趣旨ニ出ツルモノニシテ舊所有者及其ノ相續人ニ之ヲ屬センムル所以ナリ但シ其ノ結果トシテ土地ノ一部カ收用セラレタル場合ニ於テモ殘



地ノ承繼人ハ買戻權ヲ承繼スルコト無キヲ以テ經濟上ハ却テ不都合ノ結果ヲ生スルコト之無シトセス。次ニ此ノ買戻權ハ其ノ性質ニ於テ民法上ノ買戻權ト異リ契約ニ基キ生スルモノニ非スシテ法律上當然發生スルモノナレハ協議ニ依リ收用セラレタル場合ニ於テモ仍ホ發生スヘキモノナリ但シ此ノ點ニ付テハ反對說尠カラ博ス（美濃部博士ハ積極論ヲ唱ヘ市村博士織田博士ハ消極論ヲ唱ヘラル）。仍ホ此ノ買戻權ハ物權的效力ヲ有シ企業者カ第三者ニ移轉シタル場合ニ於テモ亦買戻權ヲ行使スルヲ得ルモノトス（第六十六條第二項）。

#### 五 行政救濟ヲ求ムル權

凡ソ收用審査會ノ裁決ニ對シテ不服アル者ハ內務大臣ニ訴願スルヲ得ヘク若シ夫レ其ノ違法裁決ニ由リ權利ヲ侵害セラレタリトスル者ニ付テハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ルモノトス但シ是等ノ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルノ期間ハ裁決謄本ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三週間以內トス（第八十一條第一項乃至第三項）。然レトモ補償金額ノ決定ニ付テハ收用審査會ノ裁決ヲ以テスルト一定ノ場合ニ於テ地方長官之ヲ決定スルトヲ問ハス不服アル者ハ裁決謄本ノ交付又ハ

行政救濟  
ヲ求ムル  
ノ權

決定ノ通知アリタル日ヨリ三箇月内ニ於テ企業者ヲ相手トシテ通常裁判所ニ之ヲ出訴スヘキモノトシ訴願及行政訴訟ハ之ヲ許サス（第八十二條第八十一條第四項）。

### 第五章 公用徵收ノ效果

土地收用法ニ依レハ公用徵收ノ效果ハ凡ソ四階段ニ分チテ發生スルモノトス。先ツ第一ノ效果ハ特定ノ公益事業ニ付公用徵收ヲ許スヘキヤ否ヤニ付内閣其ノ他ニ於テ認定ヲ爲スコトニ因リ生スルモノニシテ之ニ基キ企業者ハ公用徵收ヲ爲シ得ルノ權利ヲ取得シ一般關係者ハ之ニ對應スル義務ヲ負フモノトス。其ノ第二ノ效果ハ徵收スヘキ土地ノ細目ニ關スル地方長官ノ公告又ハ通知ニ因リ生スルモノニシテ之ニ基キ企業者ハ其ノ土地ニ立入り測量其ノ他ノ土地物件ノ調査ヲ爲シ必要ニ應シ調査ヲ作成スルノ權利並徵收スヘキ土地ノ範圍、補償金額、徵收時期等ニ付所有者其ノ他ニ協議ヲ開キ得ルノ權利ヲ取得シ更ニ協議調ハス又ハ協議シ得サルトキハ收用審査會ノ裁決ヲ求ムルノ權利ヲ取得スルモ

第一ノ效

第二ノ效



ノトシ被征收者ハ之ニ對應スル義務ノ外公告又ハ通知後ハ土地ノ形質ヲ變更シ、工作物ヲ修築シ又ハ物件ヲ附加増置スルニ付テハ行政廳ノ認可ヲ受クヘキノ義務ヲ負フニ至ルモノトス。

## 第三ノ效果

其ノ第三ノ效果ハ協議ノ決定又ハ收用審査會ノ決定ニ因リ生スルモノニシテ之ニ基キ企業者ハ收用又ハ使用ノ時期迄ニ補償金ヲ拂渡シ又ハ一定ノ場合ニ於テハ補償金ノ供託ヲ爲スヘキノ義務ヲ負ヒ（第六十條）被征收者ハ之ニ對シ收用又ハ使用ノ時期迄ニ土地物件ヲ引渡シ又ハ物件ヲ移轉スルノ義務ヲ負フモノトス但シ一定ノ場合ニ於テハ企業者ノ請求ニ依リ市町村長ハ土地所有者又ハ關係人等ノ被征收者ニ代ハリ是等ノ引渡又ハ移轉ヲ爲スヘキノモノトス（第六十一條）。仍ホ裁決後ニ在リテハ土地所有者又ハ關係人ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リ收用又ハ使用スヘキ土地物件カ滅失又ハ毀損シタル場合ニ於ケル危險負擔ノ責任ハ企業者ニ歸スルモノトス（第六十四條）。其ノ第四ノ效果ハ協議又ハ裁決ニ依リ定メタル徵收時期ニ發生スルモノニシテ此ノ時ニ於テ企業者ハ徵收物件ニ付現實ノ權利ヲ取得シ被征收者ハ其ノ權利ヲ失フモノトス（第六十三

## 第四ノ效果

條）。而シテ企業者ニ於テ此ノ時期迄ニ補償金ノ拂渡又ハ供託ヲ爲ササルトキハ收用審査會ノ裁決ハ其ノ效力ヲ失フモノトシ其ノ爲若シ土地所有者又ハ關係人ニ於テ損害ヲ受ケタルトキハ賠償ノ請求ヲ爲シ得ルモノトス（第六十二條）。

上述ノ階梯ヲ經テ生スル企業者ノ權利取得ハ其ノ性質ニ於テ法律ノ規定ニ依ル原始取得ニシテ傳來的取得ニ非サルヲ以テ企業者ハ其ノ取得シタル財産權ヲ以テ徵收手續ニ關與シタルト否トヲ問ハス、總テノ第三者ニ對抗シ得ヘク其ノ財産ニ付存在シタル權利ニシテ之ト牴觸スルモノハ總テ消滅シ又ハ制限セララルモノトス。之即土地收用法第六十二條ニ於テ「土地物件ヲ收用スルトキハ所有權ハ起業者之ヲ取得シ其ノ他ノ權利ハ消滅ス、土地ヲ使用スルトキハ其ノ權利ハ起業者之ヲ取得シ其ノ他ノ權利ハ使用ノ期間其ノ行使ヲ停止セララル但シ使用ヲ妨ケサルモノハ此ノ限ニ在ラス」ト規定スル所以ナリ。從テ土地收用法ハ先取特權、質權又ハ抵當權ヲ有スル者ニハ其ノ目的物ノ收用又ハ使用ニ因リテ債務者カ受クヘキ補償金ニ對シテモ其ノ拂渡前ニ差押ヲ爲シ是等ノ權利ヲ行フコトヲ得シメタリ（第六十五條）。

## 徵收ニ依ル權利取得ノ性質



公用徵收  
ヲ廢止シ  
得ルヤ

上述ノ如ク公用徵收ノ效果トシテ其ノ目的タル財産權カ企業者ニ移轉スルノ時期ハ協議又ハ裁決ヲ以テ定メタル收用時期ニシテ之ヨリ以前ハ企業者ハ現實ニ財産權ヲ取得スルモノニ非ス。收用審査會ノ裁決ノ效果トシテ企業者カ取得スルハ唯收用時期迄ニ一定ノ補償金ヲ拂渡シ又ハ供託シ土地物件ノ引渡又ハ移轉ヲ求メ得ルノ權利ニ過キス。從テ收用審査會ノ裁決確定後ト雖企業者ハ企業ノ中止其ノ他ノ理由ニ因リ公用徵收ヲ廢止スルコトヲ得ルモノト謂ハサル可ラス。而シテ企業者ニ於テ公用徵收ヲ廢止シタル場合ニハ企業者ハ固ヨリ補償金ノ支拂ヲ爲スノ義務ヲ免カルヘク、之ニ對シ被徵收者ハ目的物ノ引渡又ハ移轉ノ義務ヲ免カルルニ至ルモノトス但シ此ノ場合ニ於テ公用徵收廢止ノ爲ニ被徵收者カ損害ヲ受ケタルトキハ企業者ニ對シ之カ賠償ヲ求メ得ヘキハ勿論ノコトナリ。

終ニ問題トナルハ協議ニ依ル徵收ノ性質ナリ。多數學者ハ協議ニ依ル徵收ノ性質ヲ以テ一種ノ賣買契約ナリトシ總テ賣買ニ關スル私法上ノ原則ニ基キ其ノ權利關係ヲ決定スヘク企業者ノ取得スル財産權ハ承繼的取得ニ屬シ特別ノ契約

協議ニ依  
ル徵收ノ  
性質

ヲ爲ササル以上ハ被徵收者モ買戻權ヲ有セスト主張ス。然レトモ協議ハ其ノ性質ニ於テ裁決ト同様徵收ノ範圍、徵收時期及補償金額等ヲ決定スル一方法タルニ過キスシテ被徵收者カ徵收ノ目的物ニ付其ノ權利ヲ喪失スヘキ法上ノ拘束ハ既ニ内閣ニ於ケル事業ノ認定及地方長官ノ公告又ハ通知ニ依リ發生シタルモノナリ。被徵收者ハ賣買ニ於ケルカ如ク自由ナル意思決定ノ權能ヲ有スルモノニ非ス。從テ協議ニ依ル場合ニ在リテモ徵收ハ國家ノ權力作用ニ屬シ企業者ノ權利取得ハ原始取得ノ性質ヲ有シ企業者ハ被徵收者ノ該權利ニ付有シタル瑕疵又ハ制限ヲ承繼スルモノニ非ス。被徵收者ハ特別ノ契約ヲ爲スヲ要セスシテ當然買戻權ヲ取得シ得ルモノナリ。



### 第五編 法政ノ法

#### 第一章 特許法

##### 一 特許權ノ成立

特許權トハ新規ナル工業的發明ヲ專用スルノ權利ニシテ其ノ性質ニ於テ私權タリ。特許權ノ成立ニハ新規ナル工業的發明ノ存在ト國家力之ヲ確認シ一定ノ登録ヲ爲スコトトノ二要件ヲ必要トス。以下之ヲ分析シテ説明セムニ凡ソ次ノ如シ。

##### イ 新規ナル工業的發明ノ存在

新規トハ客觀的ニ公知公用ニ歸セサルコトヲ指スモノニシテ特許法ニ依レハ特許出願前帝國內ニ於テ公然知ラレ又ハ公然用ヒラレタルモノニ非ス且ツ特許出願前容易ニ實施スルコトヲ得ヘキ程度ニ於テ帝國內ニ頒布セラレタル刊行物ニ記載セラレタルモノニ非サルコトヲ必要トス(第四條)但シ特許ヲ受クル權利ヲ有スル者カ試験ノ爲ニ又ハ一定ノ博覽會へ出品ノ爲ニシ

特許權ノ意義

新規ノ意義

工業的ノ意義

發明ノ意義

特許原簿ヘノ登録

タル場合ニ於テハ六月以内ニ特許出願ヲ爲シタルトキニ限り仍ホ之ヲ新規ナルモノト看做スノ特例アリ(第五條及第六條)。

工業的トハ技術的ニ應用シ得ラルヘキノ工業上價值アルコトヲ指スモノニシテ單純ナル學理上ノ原則ノ考察又ハ農業漁業等ノ原始産業若ハ商業上ノ便宜ヲ増スヘキ考察ノ如キハ之ヲ工業的ト謂フヲ得ス。

發明トハ單純ナル發見ト異リ未知ノ方法ヲ以テ自然力ヲ利用シ一定ノ結果ヲ得ルコトノ考察ヲ指スモノニシテ單ニ未知ノ自然物ヲ發見シタルノミヲ以テハ直ニ之ヲ發明ト謂ハサルナリ。

##### ロ 國家ノ確認行爲

一定ノ權利者ノ申請ニ基キ國家ハ其ノ發明カ新規ナル工業的發明ナリヤ否ヤヲ審査確定シタル後特許原簿ニ登録ヲ爲スヘキモノニシテ特許權ハ此ノ登録ニ依リ發生スルモノナリ(特許法第三十四條)。而シテ登録ハ其ノ性質ニ於テハ國家ノ爲シタル確認ヲ公認スルノ行爲ニ過キスト雖而モ其ノ效果ヨリ見レハ著作權又ハ所有權ノ登録等ト異リ單純ナル第三者對抗ノ條件



タルニ止マラス、特許權自體ノ發生要件タルモノナリ。

### 二 特許ノ種類

物ノ發明ト方法ノ發明

特許ニハ物ノ發明ニ基ク特許ト方法ノ發明ニ基ク特許トノ二種アリ。前者ニ在リテハ物品其ノモノカ特許ノ要件ヲ具フルコトヲ必要トスレトモ之カ製作ノ方法ハ敢テ新規ナルコトヲ要セサルニ反シ後者ニ在リテハ物品自體ハ新規ナルコトヲ要セサルモ之ヲ製作スルノ方法ニ付テハ特許ノ要件ヲ具ヘ新規ナルコトヲ必要トス。從テ特許ノ效力ニ於テモ兩者ハ同シカラス。物ノ特許ヲ受ケタル者ハ其ノ物ヲ製作、使用、販賣又ハ擴布スルノ權利ヲ專有スルニ反シ方法ノ特許ヲ受ケタル者ハ其ノ方法ヲ使用シ及其ノ方法ニ依リテ製作シタル物ヲ使用、販賣又ハ擴布スルノ權利ヲ專有スルモノナリ（特許法第二十五條）。又特許ハ他ノ發明ト全ク關係ナキヤ又ハ既ニ特許ヲ得若ハ得ントスル發明ニ基キ之ヲ利用スルモノナリヤニ依リ之ヲ獨立發明ト利用發明トノ兩種ニ分チ利用發明ノ中其ノ基礎タル發明ヲ爲シタル者カ之ヲ改良又ハ擴張シテ特許ヲ受ケタル場合ハ特ニ之ヲ追加特許ト謂フ（第二條）。

獨立發明ト利用發明

### 三 特許ノ目的物

特許ノ目的物

特許法ハ公益上ノ必要ニ基キ一定ノ發明ニ付テハ之カ特許ヲ許サス。（イ）飲食物又ハ嗜好物（ロ）醫藥又ハ其ノ調合法（ハ）化學方法ニ依リ製造スヘキ物質（ニ）秩序若ハ風俗ヲ紊リ又ハ衛生ヲ害スルノ虞アルモノ等即之ナリ（第二條）。是等ノモノヲ除クノ外ハ新規ナル工業的發明ハ總テ特許ノ目的物タルヲ得ヘシト雖而モ特許出願ニ係ル發明ニシテ軍事上祕密ヲ要シ又ハ軍事上若ハ公益上必要ナルモノナルトキハ國家ハ補償金ヲ與ヘテ特許ヲ受ケルノ權利ヲ收用シ又ハ制限ヲ附シテ特許ヲ與フルコトヲ得ルモノトス（第十五條）。

### 四 特許ノ出願

特許ノ出願

特許法ニ依レハ特許ヲ受ケルノ權利ハ之ヲ移轉スルコトヲ得ルモノニシテ其ノ結果トシテ特許ヲ受ケルコトヲ得ヘキ者ニハ發明者及其ノ權利ノ承繼人ノ二種アリ（第一條及第十二條）。然レトモ被用者、法人ノ役員又ハ公務員ガ其ノ勤務ニ關シ爲シタル發明ニ付テ特許ヲ受ケルノ權利ハ是等ノ者ニ屬スルヲ原則トシ使用者、法人又ハ職務ヲ執行セシムル者ハ唯一定ノ場合ニ於テ是等ノ者又ハ



其ノ承繼人ノ受ケタル特許權ノ實施權ヲ有スルニ過キスシテ當然ニハ特許ヲ受クルノ權利又ハ特許權ヲ取得スルモノニ非ス但シ被用者等ノ勤務ニ關シ爲シタル發明ニシテ使用者等ノ業務範圍ニ屬シ且發明ヲ爲スニ至リタル行爲カ被用者等ノ任務ニ屬スル場合ニ於テハ相當ノ補償ヲ與ヘテ特許出願權又ハ特許權ヲ使用者等ニ承繼セシムヘキコトヲ豫メ契約又ハ勤務規程ニ依リ定ムルヲ得ルモノトス(第十四條)。

而シテ是等ノ者カ特許ノ出願ヲ爲スニハ一發明毎ニ之ヲ爲スヲ原則トシ(第七條)同一ノ發明ニ付テハ最先出願者ニ限り之ヲ特許シ同日ノ各別ノ出願者ニ付テハ互ニ協議セシメ協議調ハサルトキハ共ニ特許セサルモノトス(第八條)之即所謂特許ノ先願主義ナリ。

### 五 特許ノ手續

特許ノ出願ハ特許局長官ニ對シ之ヲ爲スモノニシテ特許局長官其ノ出願ヲ受理スルトキハ審査官ヲシテ之ヲ審査セシム(第七十條)。審査官ニ於テ之ヲ拒絕スヘキモノト認メタルトキハ出願人ニ對シ拒絕ノ理由ヲ示スト共ニ其ノ意見書

特許ノ手  
續及審査  
ノ先願主  
義

特許ノ手  
續

提出ノ爲ニ一定期間ヲ指定スルモノトス(第七十二條)。之ニ反シテ審査官ニ於テ出願拒絕ノ理由ヲ發見セサルトキハ出願公告ヲ爲スヘキモノト決定シ、特許局ハ之ニ基キ出願ノ要旨其ノ他ヲ特許公報ニ掲載シテ出願公告ヲ爲スト共ニ出願書類及其ノ附屬物件ヲ一定ノ場所ニ於テ公衆ノ閱覽ニ供シ異議申立ノ期間ヲ經過スルモ其ノ申立無キトキハ直ニ理由ヲ附シ特許ノ査定ヲ爲スモトス(第十七條及第八十一條)但シ特許局ハ出願人ノ請求ニ依リ決定ヨリ六月以内出願公告ヲ猶豫スルヲ得ヘク又軍事上秘密ヲ要スル發明ノ出願ニ付テハ出願公告ノ決定ヲ爲サスシテ直ニ査定ヲ爲スヘキモノトス(第七十三條第五項第六項)。

特許ニ付異議ヲ申立ントスル者ハ出願公告ノ日ヨリ二ヶ月以内ニ理由ヲ記載シ特許異議申立書ヲ特許局ニ提出スヘク、利害關係人ハ其ノ決定アル迄特許異議ニ參加スルヲ得ルモノトス(第七十四條)。而シテ異議ノ申立アレハ審査官ハ一定ノ手續ニ依リ之カ決定ヲ爲スト同時ニ特許出願ニ對シ特許スヘキヤ否ヲ理由ヲ附シ査定スルモノトス(第七十五條、第七十六條及特八十一條)。若シ夫レ特許ノ査定ヲ受ケタル者其ノ査定ニ不服アレハ乃チ之カ送達ヲ受ケタル日ヨリ

特許ノ異  
議



三十日以内ニ於テ一定ノ手續ニ從ヒ抗告審判ヲ請求スルコトヲ得ヘク（第九百九條）、抗告審判ニ於テハ審判官ハ一定ノ方法ニ依リ之ヲ審決スルモノトシ（第一百十二條）、其ノ審決ニ對シ不服アル者ハ違法ヲ理由トスル場合ニ限り更ニ大審院ニ出訴スルコトヲ得ルモノトス（第一百五條）。

#### 六 特許權ノ效力

特許局ニ於テハ特許原簿ヲ備ヘ特許スヘシトノ査定若ハ審決ノ確定又ハ判決アルタルトキハ之ニ登録シ出願人ニ特許證ヲ下付スヘキモノトシ（第六十二條）特許權ハ此ノ登録ニ依リ茲ニ發生シ成立スルモノナリ（第三十四條）但シ特許權ノ效力ニ付テハ出願公告アリタルトキハ出願公告ノ時ニ於テ之ヲ生シタルモノト看做ス（第七十三條第三項）。特許權ノ内容ニ付テハ特許ノ種類カ物ノ特許ニ屬スルヤ方法ノ特許ニ屬スルヤニ依リ異ナルコト曩ニ述ヘタルカ如シト雖何レモ獨占的專用ヲ内容トスル私權ニシテ權利者ハ權利ヲ自ラ實施スルハ勿論之ヲ移轉シ若ハ質入レ又ハ他人カ實施ヲ爲スニ付許諾ヲ與フル等ノ權利ヲ有ス但シ特許權ノ移轉、拋棄ニ依ル消滅若ハ處分ノ制限又ハ特許權ヲ目的トスル質

特許權ノ  
成立ト其  
ノ效力

特許權ノ  
内容

權ノ設定、移轉、變更、消滅若ハ處分ノ制限ハ其ノ登録ヲ受クルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得サルモノトス（第四十四條第四十五條及第四十八條）。

特許權ノ  
存續期間

而シテ特許權ノ存續期間ハ出願公告アリタル場合ニ在リテハ出願公告ノ日ヨリ、出願公告ナカリシ場合ニ在リテハ特許ノ日ヨリ十五年ヲ以テ終了スルヲ原則トシ、必要ニ應シ勅令ノ定ムル所ニ依リ三年以上十年以下之ヲ延長スルコトヲ得シム（第四十三條）。

特許權者  
ノ義務

#### 七 特許權者ノ義務

イ 特許料納付ノ義務 特許權ノ登録ヲ受クル者又ハ特許證主ハ特許法ノ定ムル所ニ依リ毎年一定ノ時期ニ於テ所定ノ特許料ヲ納付スルノ義務ヲ負フ（第六十五條）。特許料ハ特許權者ノ有スル報償タルノ性質ヲ有シ單純ナル行政上ノ手数料ニ非サレハ之ニ關スル規定ハ命令ヲ以テセスシテ特許法自ラ之ヲ定ム。而シテ特許權者タル特許證主特許料ヲ納付スヘキ期限經過後六月ヲ經ルモ尙之ヲ追納セサルトキハ期限經過ノ時ニ遡リ特許權ハ消滅シ



タルモノト看做サル但シ期限内ニ在リテハ利害關係人ニ於テ特許料ヲ代納スルコトヲ得ルモノトス(第六十九條及第六十七條)。

□ 特許標記ノ義務 特許ニ係ル物又ハ其性質ニ依リ物ノ容器包装ノ類ニハ特許ノ文字及特許番號ヲ附スルコトヲ必要トシ特許標記ヲ附セサリシ爲特許ニ係ル物ナルコトヲ知ラスシテ特許權ヲ侵害シタル者ニ對シテハ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス(第六十四條)。

ハ 特許實施ノ義務 特許權者ハ其ノ發明ヲ實施スルノ權利ヲ有スルト共ニ帝國內ニ於テ之ヲ實施スルノ義務ヲ負フモノニシテ相當ノ理由ナクシテ三ヶ年以上適當ニ實施セサル場合ニ於テハ特許局長官ハ公益上ノ必要アレハ利害關係人ノ請求ニ依リ之ニ實施權ヲ許與シ若ハ特許ヲ取消シ又ハ職權ヲ以テ之カ特許ヲ取消シ得ルモノトス(第四十一條)。

ニ 發明實施許諾ノ義務 一定ノ場合ニ於テハ特許權者ハ他人カ之ヲ實施スルニ付許諾ヲ與フヘキノ義務ヲ負フモノニシテ研究又ハ試驗ノ爲ニスル特許發明ノ實施、特許出願當時現ニ善意ニ帝國內ニ於テ其ノ發明實施ノ業ヲ

爲シ又ハ事業設備ヲ有スル者ノ其ノ事業ノ目的ノ爲ニスル發明實施及特許權發生後三年ヲ經過シタル場合ニ於テ他ノ特許發明ヲ實施スルニ付必要ナル特許發明ノ實施ノ如キ即之ナリ(第二十六條乃至第四十條及第四十九條)。

### 八 特許ノ無効及取消

與ヘラレタル特許ニシテ一定ノ瑕疵アルトキハ審判ニ依リ之ヲ無効ト爲スヘク(第五十七條)特許無効トナレハ特許權ハ始ヨリ存在セサリシモノト看做サルルヲ原則トス(第五十八條第一項)。之ニ反シテ特許ノ取消ハ將來ニ對シ其ノ效力ヲ失ハシムルモノニシテ特許法ニ依レハ特許ノ取消ヲ爲スヘキ場合ニニアリ。一ハ特許權者カ正當ノ理由ナク一定期間之カ實施ヲ爲サルトキ(第四十一條)ニシテ他ハ特許發明カ軍事上ノ祕密ヲ要シ又ハ軍事上若ハ公益上ノ必要アルトキ(第四十條)之ナリ。

### 特許ノ取 消

### 九 特許審判

特許又ハ許可ノ無効及特許權ノ範圍ノ確認竝特許法又ハ之ニ基キテ發スル勅

### 特許ノ無 効

### 特許ノ取 消

### 特許審判



令ニ定メラレタル場合ニ於テハ特許法ノ定ムル所ニ依リ利害關係人其ノ他ハ審判ヲ請求スルコトヲ得ルモノトス(第八十四條以下)。而シテ特許審判ハ審判官三人ノ合議ニ依リ特許法ノ定ムル所ノ一定ノ手續ニ從ヒ之ヲ行フモノニシテ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外審決ヲ以テ之ヲ終了スルモノトス(第百五條第一項)。審決ハ理由ヲ附シテ之ヲ爲スヘク審決ヲ受ケタル者不服アルトキハ其ノ審決ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ抗告審判ヲ請求スルコトヲ得ルヲ原則トシ(第百九條)抗告審判ノ審決ヲ受ケタル者之ニ對シ尙ホ不服アルトキハ憲法ヲ理由トスル場合ニ限り一定期間内ニ更ニ大審院ニ出訴スルコトヲ得ルモノトス(第百十五條)。仍ホ特許法ニ依レハ一定ノ審判若ハ抗告審判又ハ出訴ニ付爲シタル確定審決又ハ判決ヲ以テ終結シタル事件ニ付テハ取消ノ請求又ハ原狀回復ノ請求ニ依リ之ヲ再審スルコトヲ得ルモノトス(第百二十一條)但シ審決確定シ又ハ判決アリタル日ヨリ三日ヲ經過シタルトキハ此ノ限ニ在ラス(第百二十二條第四項)。

## 第二章 意匠權及實用新案權

### 一 權利ノ性質

意匠權モ實用新案權モ共ニ新規ナル工業的考案ヲ專用スル權利ニシテ特許權及商標權ト共ニ佛國學者ノ所謂工業所有權ニ屬スルモノナリ。其ノ特許權ト異ナル本質ハ特許權ノ如ク自然力ヲ利用スルノ發明タルコトヲ必要トセス單純ナル考案ニ過キササルノ點ニ在リ。而シテ意匠權トハ物品ニ關シ形状、模様若ハ色彩又ハ其ノ結合ニ係ル新規ノ意匠ノ工業的考案ニ對スル專用權ニシテ(意匠法第一條)實用新案權トハ物品ニ關シ形状、構造又ハ組合ハセニ係ル實用アル新規ノ型ノ工業的考案ニ對スル專用權タリ(實用新案法第一條)。前者ハ單ニ意匠ノ考案タレハ足ルニ反シ後者ハ實用アル型ノ考案タルコトヲ必要トスル外大體ニ於テ兩者ハ類似ノ性質ヲ有シ何レモ登録ニ依リ國家ヨリ確認セラレ始メテ權利ヲ發生スルコトニ於テハ特許權ト異ナルコト無シ(意匠法第八條第一項及實用新案法第六條第一項)。仍ホ新規及工業的ノ意義並登録ニ付先願主義ヲ採ルハ

意匠權及  
實用新案  
權ノ性質



特許權ニ付述ヘタル所ニ同シ。

二 權利ノ内容

意匠權ノ内容ハ其ノ登録意匠ニ係ル物品ヲ業トシテ製作、使用、販賣又ハ擴布スルノ專用權ニシテ（意匠法第八條第二項）實用新案權ノ内容ハ其ノ登録實用新案ニ係ル物品ヲ業トシテ製作、使用、販賣又ハ擴布スルノ專用權タリ（實用新案法第六條第二項）。其ニ業トシテ之ヲ行フノ權ニシテ特許發明ノ場合ト異リ他人カ自家用ノ爲ニ之ヲ爲スヲ妨クルモノニ非ス。又意匠權ハ命令ノ定ムル一定ノ類別内ニ於テ指定セラレタル物品ニ之ヲ現ハスノ權タリ（意匠法第五條）、其ノ他ノ物品ニ之ヲ用フルモ敢テ意匠權ノ侵ゾトナルモノニ非ス。

而シテ存續期間ニ付テハ意匠權モ實用新案權モ共ニ同シク登録ノ日ヨリ十年ヲ以テ終了スルモノトス（意匠法第十二條及實用新案法第十條）

三 特殊ノ制度

意匠原簿及實用新案原簿ノ備付、權利者カ一定ノ他人ニ對シ實施權ヲ認容スヘキ義務、權利者ノ登録料納付ノ義務、意匠又ハ實用新案標記ノ義務、登録ノ

意匠權又ハ實用新案權ノ内容

特殊ノ制度

無効及取消、審査及審判ノ手續等ニ付テハ意匠權モ實用新案權モ大體ニ於テ特許權ト同様ナレハ茲ニ之ヲ再說セス但シ特許ニ於ケルカ如ク意匠權者及實用新案權者ハ其ノ實施ノ義務ヲ負フモノニハ非ス。

以下意匠權又ハ實用新案權ニ付特有ナル制度ニ付テノミ少シク列舉セン。

1 次ニ掲クル一定ノ意匠又ハ實用新案ニ付テハ登録ヲ許サス（意匠法第二條及實用新案法第二條）。

イ 菊花御紋章ト同一若ハ類似ノ形狀ヲ有スル意匠若ハ實用新案又ハ斯カル模様ヲ有スル意匠

ロ 秩序又ハ風俗ヲ紊ルノ虞アル意匠又ハ實用新案

ハ 世人ヲ欺瞞スルノ虞アル意匠

ニ 衛生ヲ害スルノ虞アル實用新案

2 意匠登録出願者ハ登録ノ日ヨリ三年以内ヲ限リ其ノ意匠ヲ祕密ニセムコトヲ請求スルコトヲ得ルモノトス（意匠法第六條）

3 自己ノ登録意匠ニ類似スル意匠權ハ最先ニ發生シタル意匠權ト合體スルモ



ノトシ(意匠法第八條第三項)類似意匠ハ新規ノモノトシテ保護セララルコトナシ。

### 第三章 商標權

#### 一 商標權ノ意義及商標ノ内容

商標權トハ自己ノ生産、製造、加工、選擇、證明、取扱又ハ販賣ノ營業ニ係ル商品ナルコトヲ表彰スル爲商標ヲ專用スル權利ニシテ登録ヲ條件トシテ發生スルハ其ノ他ノ工業所有權ニ同シ(商標法第一條第一項及第七條第一項第二項)。而シテ商標權ヲ認ムルハ工業考案自體ヲ保護スルヲ目的トスルニ非スシテ却テ之ニ依リ一定ノ商品ニ對スル營業上ノ信用ヲ確保シ不正競争ヲ避ケシメムトスルカ爲ナリ。從テ登録ヲ受クルコトヲ得ヘキ商標ハ文字、圖形若ハ記號又ハ其ノ結合ニシテ特別顯著ナルモノナルコトヲ要シ(第一條第二項)、同一又ハ類似ノ商品ニ慣用スル標章ト同一又ハ類似ノモノ及登録失效前一年以上使用セサリシモノヲ除クノ外登録失效ノ日ヨリ一年ヲ經過セサル他人ノ商標ト同一又

商標權ノ意義

商標權ノ認ムル理由

商標ノ内容

ハ類似ニシテ同一又ハ類似ノ商品ニ使用スルモノ、其ノ他一定ノ内容ヲ有スル商標ニ付テハ登録ヲ許サス(第二條)。登録ヲ受ケムトスル者ハ商標ニ施スヘキ色ヲ限定シテ之ヲ受クルコトヲ得ヘク(第一條第三項)、同一商品ニ使用スヘキ自己ノ商標ニシテ相類似スルモノ又ハ類似ノ商品ニ使用スヘキ自己ノ商標ニシテ同一ノモノ若ハ相類似スルモノハ聯合商標トシテ之カ登録ヲ受クルコトヲ得ルモノトス(第二條)。

#### 二 商標權ノ性質

商標ハ其ノ性質ニ於テ商品ト離ル可ラサル關係ヲ有スルコト意匠權又ハ實用新案權ト同シナルカ故ニ出願者ハ必ス其ノ商標ヲ使用スヘキ商品ヲ指定スルヲ要シ(第五條)且其ノ目的ニ於テ營業上ノ信用ヲ保護セムトスルモノナルカ故ニ營業ト共ニスル場合ニ限り之カ移轉ヲ認メラレ(第十二條)營業廢止ト共ニ當然消滅スルモノナリ(第十三條)。而シテ商標權ノ存續期間ハ登録ノ日ヨリ二十年ヲ以テ終了スルモノトス(第十條)ト雖更新登録ノ出願ニ依リ之ヲ更新スルコトヲ得シムルハ商標權カ他ノ工業所有權ト異ナルノ一特徴ナリ(第十一條)。又商

商標權ノ性質



標權ハ指定シタル商品ニ付其ノ商標ヲ専用スルコトヲ其ノ内容トスルモノナレトモ此ノ效力ハ同一商品ノ外類似商品ニモ及フヘキモノニシテ登録商標ト同一又ハ類似ノ商標ハ同一又ハ類似ノ商品ニ用フルヲ許サス(第三十四條)。以上ノ外登録ノ先願主義(第四條)、商標權ノ效力ノ範圍(第八條及第九條)、登録ノ取消(第十四條及第十五條)、登録ノ無效(第十六條)、登録原簿ノ備付(第十七條乃至第十九條)、登録料納付ノ義務(第二十條)、審査及審判(第二十一條乃至第二十五條)等ニ付テハ一々茲ニ之ヲ述ヘス。

### 三 非營利商標及團體商標

商標法ハ特ニ營利ヲ目的トセサル業務ニ係ル商品ノ標章ニ付テモ一種ノ商標權トシテ登録ニ依リ之カ専用權ヲ付與スルノ制ヲ樹テ(第二十六條)更ニ同業者及密接ノ關係ヲ有スル營業者ノ設立シタル法人ニシテ團體員ノ營業上ノ共同ノ利益ヲ増進スルヲ目的トスルモノニ付テハ其ノ團體員ヲシテ其ノ營業ニ係ル商品ニ標章ヲ専用セシムル爲其ノ標章ニ付團體標章ノ登録ヲ受ケ一種ノ商標權ヲ得シムル途ヲ啓ケリ(第二十七條)。

非營利商標

團體商標

## 第四章 著作權

### 一 著作權ノ内容

著作權ノ  
意義

著作權トハ文藝、學術又ハ美術ノ範圍ニ屬スル著作物ヲ複製スルノ専用權ニシテ其ノ性質ニ於テ財產權ノ一種ニ屬シ讓渡性ヲ有ス(著作權法第一條第一項及第二條)。凡ソ著作物トハ人ノ精神作用ニ依ル製作物ヲ指スモノニシテ文書、演述、圖畫、建築、彫刻、模型、寫真其ノ他文藝、學術又ハ美術ノ範圍ニ屬スルモノハ總テ著作權ノ目的物タルヲ得ルヲ原則トスレトモ著作權法ハ公益上ノ理由ニ鑑ミ(イ)法令及官公文書(ロ)新聞紙ニ記載シタル雜報及時事ノ記事(ハ)公開セル裁判所、議會並ニ政談集會ニ於テ爲シタル演述ニ付テハ著作權ノ目的物ト爲スコトヲ得サラシム(第十一條)。次ニ著作權ノ内容ヲ爲ス複製ニ付テハ著作權法ハ敢テ其ノ形定及方法ヲ限式セサルヲ以テ印刷、模寫、筆記、攝影、擬作其ノ他如何ナル方法ヲ採ルヲ問ハス、著作物ヲ模造スルハ總テ著作權ノ侵害ト爲ルモノナリ。而シテ一定ノ著作物ヲ他國ノ文字文章ニ改ムルヲ翻譯ト謂

著作權ノ  
内容



著作權ノ  
歸屬

ヒ文藝學術ノ著作物ニ付テハ翻譯權モ亦著作權ノ内容ニ包含セラレヘク又公衆一般ニ對シ營利的目的ヲ以テ演奏スルヲ興行ト謂ヒ各種ノ脚本及樂譜ノ著作權ニハ此ノ興行權ヲモ包含スルモノトス(第一條第二項)。

## 二 著作權ノ歸屬

一定ノ著作物ニ對スル著作權ハ其ノ著作者ニ屬スルモノニシテ(第一條第一項)數人ノ合著作ニ係ル物ニ付テハ其ノ共有トシ(第十三條)、數多ノ著作物ヲ適法ニ編輯シタル者ハ著作者ト看做シ其ノ編輯物全部ニ付テノミ著作權ヲ有ス但シ各部ノ著作權ハ其ノ著作者ニ屬スルハ勿論ナリ(第十四條)。而シテ著作者ハ著作ト同時ニ其ノ著作權ヲ取得スルモノニシテ登録ヲ其ノ成立條件トスルモノニ非スト雖著作權ノ相續、讓渡及質入ニ付テハ其ノ登録ヲ受クルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得サルモノトス(第十五條第一項)。次ニ著作權ノ承繼者ハ著作物ヲ複製スルノ權利ヲ取得スルニ止マルモノニシテ敢テ案リニ著作者ノ氏名稱號ヲ變更シ若ハ其ノ題號ヲ改メ又ハ著作物ヲ改竄シ得ルモノニ非ス。是等ノ行爲ヲ爲スカ爲ニハ必ス著作者ノ同意ヲ經サル可ラサルモノナ

## リ(第十八條)。

## 三 著作權ノ存續期間

一般ニ發行又ハ興行シタル著作物ノ著作權ハ著作者ノ生存間及其ノ死後三十年間繼續スルモノトシ、合著作ニ付テハ最後ニ死亡シタル者ノ死後三十年間繼續スルモノトス(第三條)。若シ夫レ著作者ノ死後ニ於テ又ハ無名若ハ變名ヲ以テ發行又ハ興行シタルモノニ付テハ發行又ハ興行ノ時ヨリ三十年間ヲ存續期間トシ(第四條及第五條)著作權者ノ有スル其ノ翻譯權ハ原著作物發行ノ時ヨリ、寫真ノ著作權ハ始メテ發行シタル翌年ヨリ三十年ヲ以テ存續期間トス(第七條及第二十三條)。是等ノ存續期間ヲ計算スル方法ニ付テハ著作權法ニ特別ノ明文アリ、著作者死亡ノ年又ハ著作物ノ發行若ハ興行ノ年ノ翌年ヨリ起算スルモノトス(第九條)。

## 第五章 其ノ他ノ行政法規ニ認メラルル權利

### 一 漁業權



免許漁業ノ種類

凡ソ漁業トハ營利ノ目的ヲ以テ水産動植物ノ採捕又ハ養殖ヲ業トスルコトヲ謂フ(漁業法第一條第一項)。而シテ其ノ中特ニ公水ヲ獨占的ニ利用スルモノニ付テハ行政官廳ノ免許ヲ受ケシムト雖其ノ他ノ漁業ニ付テハ特別ノ特許ヲ受クルコトヲ必要トセス。前者ハ即所謂免許漁業ニシテ後者ハ所謂自由漁業タリ。漁業法ニ依レハ免許漁業ニハ定置漁業、區劃漁業、專用漁業及特別漁業ノ四種アリ。定置漁業トハ漁具ヲ定置シテ爲ス漁業ニシテ區劃漁業トハ水面ヲ區劃シテ爲ス漁業タリ。兩者ニ屬スヘキ漁業ノ種類ハ主務大臣之ヲ指定ス(第四條)。專用漁業トハ水面ヲ專用シテ爲ス漁業ニシテ漁業組合カ其ノ地先水面ノ專用ヲ出願シタル場合ニ限り認めラル(第五條)。特別ノ漁業トハ主務大臣ニ於テ特ニ免許ヲ受ケシムル必要アリト認めタル漁業ニシテ其ノ種類ハ主務大臣之ヲ定ム(第六條)。而シテ漁業權トハ漁業ノ爲ニ一定水面ヲ獨占的ニ利用スルノ權利ニシテ專ラ免許漁業ニ付認めラル所タリ。漁業法ニ依レハ漁業權ハ物權ト看做サレ土地ニ關スル規定ヲ準用スルモノニシテ(第七條)、其ノ成立ニハ必ス特許ヲ受ケサル可ラス。漁業權ノ存續期間ハ二十年以内ニ於テ行政官廳之ヲ定メ漁

漁業權ノ觀念

著作權ノ存續期間

業權者ノ申請アレハ之ヲ更新スルヲ得シム(第十六條)。漁業權ハ物權ト看做サルモノナレハ之ヲ處分シ得ルハ勿論ナリト雖而モ其ノ處分ニ付テハ公益上ノ必要ニ基キ幾多ノ制限ヲ設ケラル。即漁業權ノ分割其ノ他ノ變更ハ總テ行政官廳ノ許可ヲ受クヘク、地先水面專用ノ漁業權ハ行政官廳ノ認可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ處分シ得サルモノトシ(第十條)、漁業權ノ分割變更及拋業ニハ登録シタル權利者ノ同意アルコトヲ必要トスルナリ(第二十八條)。仍ホ行政官廳ハ免許漁業原簿ヲ備付クルモノニシテ之ニ爲シタル登録ハ即登記ニ代ハルモノトシテ漁業權ノ設定、移轉ヲ以テ第三者ニ對抗セシムルノ條件ヲ爲スナリ(第二十六條)。

入漁權

次ニ專用漁業ニ付テハ特ニ入漁權ナルモノ認めラル。入漁權トハ他人ノ專用漁業權ニ屬スル漁場内ニ入會ヒ其ノ專用漁業權ノ全部又ハ一部ノ漁業ヲ爲スノ權利ニシテ漁業法ニ依レハ設定行爲又ハ舊漁業法施行前ノ慣行ニ依リ認めラルモノタリ(第十二條)。其ノ性質ニ於テハ物權ト看做サルト雖處分ニ付テハ非常ノ制限ヲ受ケ相續及讓渡ノ外ハ權利ノ目的タルヲ得サルモノトシ(第十三



條)、其ノ讓渡ニ付テハ別段ノ慣行アラサル限り漁業權者ノ同意ヲ要スルモノトス(第十四條)。仍ホ漁業法ニ依レハ漁場ノ區域、方法並ニ漁業權又ハ入漁權ノ範圍ニ關スル爭ニ付テハ之ヲ行政事件トシ利害關係者ハ行政官廳ニ其ノ裁決ヲ申請スヘク之ニ不服アル者ニ對シテ訴願又ハ行政訴訟ヲ提起スルノ途ヲ認ム(第五十六條)。其ノ行政裁判所ノ管轄ニ屬セシメタル所以ハ蓋シ私權タル漁業權ノ爭ハ畢章其ノ成立ノ原因タル特許行爲ニ關スル爭ニ出發スルモノナレハナリ。

## 二 鑛業權

凡ソ鑛物ハ土地ノ構成部分ヲ爲シ土地所有者ニ歸屬スヘキノ理ナリト雖而モ國家ハ公益上ノ必要ニ基キ一定ノ鑛物ニ付テハ之ヲ土地ト分別シテ考察シ未タ掘採セサル間之ヲ國ノ所有トシタリ(鑛業法第三條)。而シテ鑛業法ニ依レハ鑛物ノ試掘、採掘及之ニ附屬スル事業ハ之ヲ鑛業トシ(第一條)國家ノ獨占ニ屬セシメ帝國臣民又ハ帝國法律ニ從ヒ設立シタル法人ニ限り之ヲ特許スルモノトス(第五條)。此ノ特許ニ因リ鑛區ニ於テ其ノ許可ヲ受ケタル鑛物ヲ掘採シ及之ヲ

鑛物ノ所  
有權

鑛業權

取得スル權利ハ即鑛業權ニシテ分チテ試掘權ト採掘權ノ二ト爲ス(第四條)。何レモ之ヲ物權トシ民法第七十九條第一項ヲ除クノ外總テ不動産ニ關スル規定ヲ準用スルモノタリ(第十五條)。然レトモ鑛業權ハ其ノ性質ニ於テ普通ノ物權ト異リ之ヲ不可分トシ(第十六條)相續、讓渡、滯納處分及強制執行ノ目的タルノ外權利ノ目的タルコトヲ得サルモノトス但シ採掘權ニ付テハ抵當權ノ目的ト爲スコトヲ得(第十七條)。

而シテ鑛業權ノ中試掘權ハ鑛務署長ニ、採掘權ハ農商務大臣ニ對シ一定ノ手續ニ依リ之ヲ出願シ(第二十一條)行政官廳ハ其ノ出願ニ對シテハ公益ヲ害スルモノト認メタルトキ又ハ鑛業ノ價值ナシト認メタルトキノ外先願主義ニ依リ之ヲ特許スヘキモノトス(第三十二條及第三十三條)。次ニ試掘權ハ存續期間ヲ登錄ノ日ヨリ二年トシ(第十八條)試掘ニ依リ得タル鑛產物ハ鑛務署長ノ許可ヲ受ケ之ヲ處分スルヲ得ヘク(第四十八條)採掘權ハ一定ノ理由ニ依リ取消サル迄ハ永久無期限トシ採掘ニ依リ得タル鑛產物ハ自由ニ處分スルヲ得ルモノトス。仍ホ鑛業權者ハ鑛業法ノ定ムル所ニ依リ國家ニ對シ企業ヲ實施スルノ義務、特



## 狩獵制度

殊ノ監督ニ服スルノ義務、危險豫防ヲ爲スノ義務及鑛業稅ヲ納付スルノ義務等ヲ負フト共ニ公用徵收權其ノ他一定ノ權利ヲ取得スルモノトス。

## 三 狩獵權

狩獵法ニ依レハ主務大臣ノ定ムル狩獵鳥獸以外ノ鳥獸ハ總テ之カ捕獲ヲ許サス（第一條第一項第二項）。狩獵鳥獸ト雖主務大臣ノ定ムル銃器、網、竊繩、槓、釣又ハ罌ヲ使用シテ之ヲ捕獵スルニハ狩獵免許ヲ受ケサル可ラス但シ欄、柵其ノ他ノ圍障アル邸宅地域内ニ於テ銃器ヲ使用セスシテ捕獲スル場合ハ此ノ限ニ在ラス（第二條）。又主務大臣ハ特殊ノ狩獵鳥獸ノ保護蕃殖ノ爲必要ト認ムルトキハ區域ヲ定メ其ノ捕獲ヲ禁止又ハ制限スルコトヲ得ヘク（第一條第三項）、地方長官ニ於テ必要アリト認ムルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ狩獵法第三條ノ規定スル獵具ノ使用以外ノ方法ニ依ル狩獵鳥獸ノ捕獵ヲモ禁止又ハ制限スルコトヲ得ヘク（第四條）、狩獵鳥獸ノ雛及鳥類ノ卵ハ主務大臣ノ定ムルモノヲ除クノ外之カ捕獲又ハ採取ヲ禁スルモノトス（第二條）。

狩獵權トハ狩獵法ニ基キ一定ノ獵具ニ依リ狩獵鳥獸ヲ捕獲スルノ權利ニシテ

## 狩獵權

免許ニ依リ生スル公權タリ。狩獵免許ハ銃器ヲ使用セサルヤ否ヤニ依リ甲乙二種トシ何レモ狩獵免狀ヲ下付ス。狩獵免狀ノ有効期間ハ原則トシテ十月十五日ヨリ翌年四月十五日迄トシ（第五條）狩獵免許ヲ受ケタル者ト雖免狀ノ有効期間内ニ非サレハ狩獵ヲ爲シ得サルハ勿論此ノ期間内ニ於テモ日出前若ハ日没後、市街其ノ他人家稠密ノ場所若ハ衆人群集ノ場所並御獵場、禁獵區、公道、公園、神社境内及墓地ニ於テハ狩獵ヲ爲スコトヲ得サルモノトシ（第十一條及第十六條前段）。爆發物、劇藥、毒藥、据銃又ハ危險ナル罌若ハ陷窄等ハ之ヲ使用スルヲ得サルモノトシ（第十五條）更ニ銃丸ノ達スヘキ虞アル人畜、建物、汽車、電車若ハ艦船ニ向テ銃獵ヲ爲スコトヲ得サルモノトス（第十六條後段）。仍ホ狩獵免許ヲ受クル者ハ甲乙各種ニ付狩獵法ノ定ムル所ノ區別ニ從ヒ一定ノ免許稅ヲ納付スヘキ義務ヲ負フモノトス（第八條）。

## 第六章 司法行政

## 司法行政

司法ハ政トハ司法作用ニ伴ヒ行ハルル行政作用ニシテ司法大臣ノ管轄ニ屬シ



四七〇  
裁判所ノ構成及監督、裁判ノ準備及執行、監獄ノ施設、判檢事辯護士其ノ他ノ監督等ヲ主ナルモノトスト雖茲ニハ一々之ヲ述ヘス。

## 第六編 其ノ他ノ行政

### 第一章 軍 政

#### 一 軍令權ト軍政權

軍令權  
凡ソ軍事ニ關スル國家ノ作用ニハ軍令權ニ基クモノト軍政權ニ基クモノト在リ。軍令權トハ軍隊ノ統率即兵力ノ運用ニ關スルモノニシテ天皇カ大元帥陛下タル地位ニ立チ統括セラルル所タリ。其ノ性質ニ於テ一般統治事務ノ範圍外ニ屬シ國務大臣ノ輔弼及副署ヲ要スルモノニ非スシテ天皇ノ直轄ノ下ニ陸軍參謀本部及海軍軍令部其ノ他ノ機關之ヲ掌ルモノナリ但シ軍ノ統帥ノ爲ニスルモノナリト雖公布スヘキ軍令ニ付テハ軍令第一號ヲ以テ特ニ陸海軍大臣夫レ夫レ之ニ副署スヘキモノトシタリ。之ニ反シテ軍政權トハ軍隊ノ組織、編成其ノ他ノ軍事行政ニ關スルモノニシテ固ヨリ一般統治事務ノ範圍ニ屬シ天皇ハ國務大臣ノ輔弼ニ依リ之ヲ行ハセラルルモノタリ。陸軍大臣及海軍大臣ハ行政大臣タル

軍政權



地位ニ於テ天皇ノ命ヲ承ケ兵員ノ徵集、兵器其ノ他ノ軍需品ノ徵發、常備兵額ノ決定並軍事教育及軍事裁判等ノ兵力ノ構成、補給ニ關スル事務ヲ行フモノニシテ軍需工業動員法ニ定ムル事務ニ付テハ内閣總理大臣之ヲ管掌ス。

## 二 兵役ノ義務

兵役ノ義務トハ軍隊ノ組織ニ加ハリ軍事動作ニ勤務スル公法上ノ義務ニシテ反面ニ於テハ權利タル性質ヲ有シ帝國臣民ニノミ專屬ス。而シテ兵役ノ義務ニ付テハ法律ヲ以テ之ヲ定ムルヲ要シ(憲法第二十條)徵兵令ニ依レハ日本帝國臣民ニシテ滿十七歳ヨリ滿四十歳迄ノ男子ハ總テ兵役ニ服スルノ義務ヲ負ヒ、唯六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者及癩疾不具ノ爲徵兵検査規則ニ照シ兵役ニ堪エサル者ノミヲ其ノ例外トス(徵兵令第一條)。

次ニ兵役ハ之ヲ常備兵役、後備兵役、補充兵役及國民兵役ノ四トシ(徵兵令第二條)常備兵役ハ更ニ現役及豫備兵役ノ二種トス(同令三條)。國民ハ固ヨリ抽象的ニハ兵役ニ服スルノ負擔ヲ有スト雖其ノ現實ニ軍事勤務ニ服スヘキ義務ハ徵集ニ依リ發生スルモノニシテ徵集ハ毎年滿二十歳ニ達シタル壯丁ニ付身體檢

査ヲ經テ之ヲ行フモノトシ、徵集ニ關シテハ延期、猶豫及免除ノ制度アリ。更ニ現役勤務ニ付テハ一定資格者ノ志願ニ基ク一年現役ノ制度及官公立師範學校卒業者ニシテ小學校ノ教職ニ在ル者ニ對スル一年現役ノ制度アリ、何レモ一年ノ服務ニ依リ現役義務ヲ解除スルモノトス(徵兵令第十三條及第十四條)。

## 三 軍事負擔

軍事負擔トハ軍事上ノ目的ノ爲ニ國家カ臣民ニ課スル負擔ニシテ其ノ性質ニ於テハ大體公企業負擔ニ同シ。軍事負擔ノ主ナルモノハ即徵發令ニ依ル徵發ト要塞地帶法ニ依ル公法上ノ地役トノ二ナリ。

徵發トハ戰時若ハ事變ニ際シ又ハ演習行軍ニ際シ陸軍又ハ海軍ノ全部又ハ一部ヲ動カスニ方リ其ノ所要ノ軍需ヲ地方ノ人民ニ賦課徵收スルコトニシテ其ノ内容ヨリセハ財産權ヲ徵收スル場合ト一定ノ勤勞ヲ賦課スル場合ト在リ。財産權ヲ徵發スルモノノ中ニモ馬匹糧食等ノ所有權ヲ徵收スルモノト營舎其ノ他ノ使用權ヲ徵收スルモノト在リト雖何レモ現品夫役ノ賦課徵收ト異リ財産價值ヲ要求スルモノニ非スシテ一定ノ物件又ハ勤勞自體ヲ要求スルモノナレハ其ノ損



害ニ對シテハ之ヲ補償スヘキモノナリ。而シテ徵發ノ權限ハ當該軍司令官ニ屬シ其ノ手續ニ付テハ徵發令ニ一定ノ定アリ。

次ニ要塞地帯法ニ依ル公法上ノ地役トハ即要塞地帯ト定メラレタル場合ニ生スル軍事負擔ニシテ要塞地帯トハ國防ノ爲建設シタル諸般ノ防禦營造物ノ周圍ノ區域ヲ謂フモノナリ(要塞地帯法第一條)。而シテ要塞地帯内ニ於ケル土地物件ニ付テハ工作物又ハ建造物ノ建築、變更等ヲ制限セラレ其ノ他國防上有害ナル各種ノ行爲ヲ制限セラルルモノトス。

## 第二章 外 政

外政トハ外國トノ對外關係ニ關スル行政ニシテ國家相互間ノ國際關係ニ付テハ國際法トシテ獨立ノ部門ヲ爲スカ故ニ行政法ノ範圍ニ於テ研究スルヲ要スルハ主トシテ外國ニ在ル帝國臣民ノ保護並本國ノ産業獎勵ノ爲ニスル諸種ノ調査報告等ニ過キス。而シテ是等ノ外政ヲ行フノ機關ハ外務大臣、大使、公使、外交官及領事官等ニシテ是等ノ機關ハ國際條約其ノ他ニ遵ヒ種々ノ職務ヲ執行ス。

## 第三章 財 政

### 第一節 總 說

財政トハ國家ノ財産ヲ管理處分シ、各種ノ國家ノ事務及事業ニ要スル收支ヲ調理スルノ行政作用ニシテ夫レ自身財政學トシテ獨立ノ部門ヲ爲スカ故ニ茲ニハ簡單ニ一言スルニ止メム。

抑モ國家ノ財産ニハ有形ノ物ナリ、無形ノ權利在リ、權利ノ中ニモ有形ノ物ニ關スル使用權其ノ他ノ權利在リ、無形ノ財産權在リ。又國家ノ財産ヲ其ノ用途ヲ標準トシテ區別スレハ公用ニ供スルモノ即公物ト然ラサルモノト在リ、公用ニ供セラルルモノノ中ニモ單ニ公務ノ爲ニ使用セラルルモノト公衆一般ノ使用ニ供セラルルモノト在リ。公用ニ供セラルルモノニ對シテハ國家ハ其ノ公法上ノ資格ニ於テ之ヲ有スヘキカ故ニ此ノ區別ハ即佛國學者ノ公産、私産ノ區別ニ符合ス。又



公用ニ供セラレルモノハ原則トシテ敢テ收益ヲ目的トスルモノニ非サルニ反シ公用ニ供セラレサルモノハ多クハ收益ヲ得ルヲ目的トスルモノタリ、從テ此ノ區別ハ亦獨國學者ノ行政財産、收益財産ノ區別トモ大體符合ス。

而シテ國有ノ不動産並ニ勅令ヲ以テ定ムル國有ノ動産及權利ニ付テハ國有財産法ノ規定在リ。國有ノ森林及原野ニ付テハ國有林野法ノ規定アリ。其ノ他各種ノ財産ニ付特別ノ單行法ノ存スルモノ尠カラス。茲ニハ專ラ國有財産法ノ規定ニ付其ノ大體ヲ述ヘム。抑モ國有財産法ニ依レハ國有財産ハ分チテ次ノ四種トシ其ノ事務ハ各省大臣之ヲ管理シ之カ總轄事務ハ大藏大臣ノ管掌ニ屬セシム（第二條及第三條）。

イ 公共用財産、國ニ於テ直接公共ノ用ニ供シ又ハ供スルモノト決定シタルモノ。

ロ 公用財産、國ニ於テ神社ノ用又ハ國ノ事務、事業若ハ官吏其ノ他ノ職員ノ住居ノ用ニ供シ又ハ供スルモノト決定シタルモノ。

ハ 營林財産、國ニ於テ森林經營ノ目的ニ供シ又ハ供スルモノト決定シタル

モノ。

ニ 雜種財産、前各號ニ屬セサルモノ。

而シテ公供用財産及公用財産ハ共ニ公物タル性質ヲ有スヘク營林財産ハ收益財産ニ屬スト雖尙ホ之カ處分ハ國家ノ森林經營上許ス可ラサルモノナルカ故ニ是等ノ財産ニ付テハ總テ一般ニ之ヲ讓渡シ又ハ之ニ私權ヲ設定スルコトヲ得サルヲ原則トシ唯其ノ用途又ハ目的ヲ妨ケサル限度ニ於テノミ使用又ハ收益ヲ爲サシムコトヲ認ム（第四條）。之ニ反シ雜種財産ハ固ヨリ公物タルノ性質ヲ有セサルカ故ニ其ノ處分シ得ヘキハ當然ノ事ナリト雖而モ之カ處分ノ如何ハ國家ノ財産ニ至大ノ關係ヲ有スルカ故ニ國有財産法ハ幾多ノ明文ヲ置キ其ノ處分ヲ制限シタリ。就中無償ヲ以テ讓渡スルカ如キハ最モ慎マサル可ラサルニ因リ特定ノ場合ニノミ之ヲ許シリ（第五條乃至第七條及第十五條以下）。

次ニ國家ノ財政ハ收支ノ豫算ニ遵據シ之ヲ調理スヘキモノニシテ其ノ支出ニハ事務費ニ屬スヘキモノト事業費ニ屬スヘキモノト在リ。是等ノ經費ニ充ツヘキ收入ニハ租稅、手数料、專賣收入、國有財産ヨリ生スル收入及國債其ノ他在

國家ノ收

其ノ他ノ行政 第三章 財政



リ。以下租稅、手数料及專賣收入ニ付之ヲ述ヘタル後、豫算決算ニ關スル制度ヲ簡單ニ説明スヘシ。

終ニ國庫ノ觀念ニ付一言センニ此ノ語ハ要スルニ財產權ノ主體タル地位ヨリ見テ國家ヲ指稱スルモノニシテ國家ト離レテ獨立ノ存在ヲ有スル別個ノ人格ニハ非サルナリ。

## 第二節 租 稅

### 一 租稅ノ觀念

租稅トハ統治權ニ基キ一般公費ニ充ツルカ爲メニ國家其ノ他ノ公法人ヨリ無償給付ヲ命セラルル金錢ナリ。

イ 租稅ハ國家其ノ他ノ公法人カ統治權ニ基キ命スルモノナリ。

租稅ヲ命スルノ權ハ國家又ハ之ヨリ課稅權ヲ委任セラレタル公法人ニ屬シ是等ノ課稅權者カ新ニ租稅ヲ課シ稅率ヲ變更スルニハ必ス法律ヲ以テスヘキハ即帝國憲第六十二條ニ規定スル所ニシテ日本臣民カ法律ノ定ムル所ニ從ヒ納稅ノ

義務ヲ有スルハ即同法第二十一條ノ保障スル所ナリ。斯クノ如ク租稅ヲ命スルハ統治權ニ基クモノナルカ故ニ苟モ統治權ニ服從スル以上ハ總テ其ノ課稅ニ從フヘキ義務ヲ有シ敢テ帝國臣民ノミカ納稅ノ義務ヲ有スルニ非ス。而シテ租稅ハ課稅權者ニ依リ一方的ニ命セラルルモノタリ。納稅義務者ノ意思ノ如何ヲ條件トスルモノニ非ス。從テ寄附金ノ如キハ假令國家其ノ他ノ公法人カ之ヲ受クル場合ト雖之ヲ租稅ト謂ハス。

ロ 租稅ハ一般公費ニ充ツル目的ヲ以テ無償給付ヲ命セラルルモノナリ。

租稅ハ課稅權者ヨリ其一般公費ノ財源ニ充ツルカ爲メニ命セラルルモノニシテ課稅權者カ之ニ因リ要求スル所ハ即其ノ財產的價値ノ取得ニ存スルナリ。從テ課稅權者ハ租稅ニ對シ補償ヲ爲スヘキモノニ非スシテ其ノ無償給付ヲ命セラルルハ租稅ノ本質ナリ、租稅ヲ以テ國家ノ保護ニ對スル報酬ナリト觀念セル思想ノ如キハ全ク過去ノ誤想ニ過キス。斯クノ如ク租稅ノ目的カ一般公費ニ充ツルニ在ルハ即租稅カ公企業負擔、軍事負擔並罰金科料及過料其ノ他ト異ナルノ特徵ニシテ其ノ無償給付ヲ命モラルルモノナル點ハ即租稅ト手数料トノ根本的相



違ナリトス。

ハ 租税ハ其ノ實質ニ於テ金錢ナリ。

租税ハ課税權者ノ一般公費ニ充ツルカ爲メニ財産的價値ノ給付ヲ命スルモノナリ。然ルニ貨幣經濟ノ發達シタル現今ニ於テハ財産的價値ヲ取得スルノ方法ハ即金錢ノ取得ヲ以テ最モ適當ニシテ且必要ナルコトナリトス。而シテ租税カ市町村ノ夫役、現品等ト異ナルハ此ノ實質ニ基ク相違ナリ。

二 租税ノ種類

法上ニ於テ租税ヲ納付スヘキ義務アル者ヲ納税主體、其ノ之カ負擔ヲ受クヘキ者ヲ納税負擔者、租税ヲ賦課セラルヘキ目的ヲ課税客體、税額算出ノ標準ヲ課税標準、其ノ率ヲ税率ト謂フ。而シテ租税ハ其ノ客體カ物件ナリヤ又ハ行爲ナリヤニ依リ之ヲ物件税ト行爲税トニ大別シ物件税ハ更ニ其ノ物件カ國內所在ノ物件ナリヤ又ハ輸出入物件ナリヤニ依リ之ヲ内國税ト關稅トニ分類スルヲ得ヘク、其ノ負擔者カ納税義務者自體ナリヤ又ハ當然ニ轉嫁セラルル他ノ者ナリヤニ依リ之ヲ直接税ト間接税トニ分ツヲ得ヘク、其ノ賦課ニ付一定ノ税率ヲ定

租税ニ關スル術語

租税ノ種類

メ税額ヲ算出スルヤ又ハ取得スヘキ租税總額ヲ先決定シ之ヲ納税義務者ニ配付スルヤニ依リ定率税ト配付税トニ分ツヲ得ヘク、更ニ關稅ニ在リテハ其ノ税額ノ算出ニ付物件ノ價格ヲ標準トスルヤ又ハ重量ヲ標準トスルヤニ依リ從價税ト從量税トニ分ツヲ得ヘク、更ニ租税ヲ課スヘキ公法人ノ如何ニ依リ國稅、府縣稅及市町村稅等ニ區別スルヲ得ヘシ。

三 租税ノ賦課徵收

抑モ一定ノ統治權ニ服スル被治者ハ課税權者ノ定ムル所ニ從ヒ總テ抽象的ニハ納税ノ義務ヲ有スルモノナリト雖而モ納税義務者カ具體的ニ現實ノ義務ヲ負フカ爲メニ更ニ租税ノ賦課及徵收ノ處分無カル可ラス。租税ノ賦課トハ即一定ノ納税主體ニ對シ其ノ納税額ヲ具體的ニ決定スル行政處分ニシテ租税ノ徵收トハ即納税義務者ヲシテ其ノ賦課セラレタル租税ヲ納付セシムル行政處分タリ。而シテ租税賦課ノ手續ヲ見ルニ其ノ之ヲ爲ス時期ニ付テハ豫メ定メタル納期ニ於テ賦課スルモノト一定ノ事實又ハ行爲ノ發生ニ因リ隨時ニ賦課スルモノト在リ、其ノ形式ニ付テハ一定ノ徵稅令書ノ發布ヲ要スルモノ否ト在リトス。次

納税義務ノ發生

租税ノ賦課及徵收ノ手續



滞納處分

ニ租稅徵收ノ手續ニハ凡ソ三種ノ方法在リ。一ハ直接徵收ノ方法ニシテ收稅官應ニ於テ直接徵收スルモノ、二ハ間接徵收ノ方法ニシテ印紙ノ貼布其ノ他ニ依リ間接ニ徵收スルモノ、三ハ分賦ノ方法ニシテ下級團體ニ配付シテ徵收スルモノ之ナリ。普通ハ直接徵收ノ方法ニ依ルモノニシテ收稅官應又ハ市町村長ハ徵收令書又ハ納稅告知書ヲ納稅義務者ニ交付シ納稅額、納稅期日及納稅場所其ノ他ヲ指定シ該期限内ニ納稅無キトキハ茲ニ滞納處分ヲ行フモノトス。

而シテ國稅徵收法ニ依レハ滞納處分ハ三段ノ方法ヲ以テ之ヲ行フモノニシテ先第一ニハ納期ヲ經過スルモノ納稅セサル納稅義務者ニ對シ督促狀ヲ發シ期限ヲ指定シテ納稅ヲ催告スルト共ニ一定ノ督促手數料其ノ他ヲ課スルモノトシ（第九條）第二ニハ督促狀ニ指定セル期間内ニ納稅セサル者ニ對シ其ノ一定ノ財產ノ差押處分ヲ爲スモノトシ（第十條）第三ニハ差押ヲ爲スモ尙ホ納稅セサル者ニ對シ差押財產ヲ公賣ニ附シ租稅及滞納處分費ヲ控除スルモノトス。然レトモ納稅者ノ財產ノ價額カ稅額及租稅ニ優先スル他ノ債權ニ充ツルニ足ラスト認ムルトキハ差押ヲ爲サスシテ滞納處分ハ之ヲ中止スヘク（第十二條）、差押財產ヲ公

納稅義務ノ消滅

賣スルモ買受人ナキカ若ハ其ノ價格見積價格ニ達セスト認ムルトキハ政府ニ之ヲ買上クルヲ得ヘク、其ノ見積價格僅少ニシテ公賣費用ヲ償フニ足ラサルトキハ隨意契約ニ依リ之ヲ賣却シ得ルモノトス（國稅徵收法第二十四條及第二十五條等）。仍ホ租稅ノ賦課及滞納處分ニ關シテハ訴願及行政訴訟ノ救濟手段ヲ認メラル但シ海關稅ニ付テハ訴訟ヲ許サス（訴願法第一條明治二十三年法律第百六號）。

四 納稅義務ノ消滅

具體的ニ發生セル納稅義務ハ納稅ニ依リ消滅スルハ勿論此ノ他時効、免除又ハ滞納處分ノ終了等ニ依リテモ亦消滅スルモノトス但シ其ノ中國稅ノ免除ニ付テハ法律ノ規定ニ根據ヲ置クノ必要アルモノトス。

第二節 手數料

手數料トハ特定ノ行爲ヲ求ムル者又ハ公企業若ハ公物ノ利用者ニ對シ其ノ報償トシテ納付ヲ命セラルル金錢ニシテ其ノ報償的性質ヲ有スル點ニ於テ租稅ト

手數料ノ觀念

其ノ他ノ行政 第三章 財政



異ナルノ特徴ヲ有ス。從テ手数料ハ利益ヲ享受スル特定人ニ對シ之ヲ課スヘキ性質ヲ有シ租稅ノ如ク一般人ニ課スヘキモノニ非ス。又其ノ額ニ於テモ之ニ要スル手数料ノ程度及之ニ因リ受クル利益ヲ標準トシテ決定スヘク租稅ノ如ク納付義務者ノ負擔力ノ如何ヲ標準トスヘキニ非ス。彼ノ狩獵免許稅及登錄稅等カ租稅ニ屬スルヤ手数料ニ屬スルヤハ全ク其ノ額ノ決定方法ノ如何ニ基キ之ヲ決定スヘキモノニシテ此ノ點ヨリ見レハ兩者ハ免狀ノ種類又ハ登錄物件ノ價格等ニ依リ其ノ額ヲ決定シ手数料ノ如何及利益ノ如何ハ大ナル關係ヲ有セサルカ故ニ租稅ト見ルヲ妥當ナリトス。

上述ノ手数料ハ之ヲ特定ノ行爲ニ對スル報償ナリヤ又ハ公企業若ハ公物ノ利用ニ對スル報償ナリヤニ依リ狹義ノ手数料ト使用料トニ分類スルヲ得ヘク、狹義ノ手数料ハ其ノ行爲カ司法上ノ行爲ナリヤ行政上ノ行爲ナリヤニ依リ更ニ司法上ノ手数料ト行政上ノ手数料トニ區別スルヲ得ヘシ。而シテ行政上ノ手数料及使用料ニ付テハ法律ヲ以テ之ヲ規定スルヲ要セサルモ司法上ノ手数料ニ付テハ必ス法律ヲ以テ規定スヘキモノナリ(憲法第六十二條)。

手数料ノ種類

手数料徵收ノ手續

手数料ノ徵收手續ハ印紙ノ貼布ニ依ル間接徵收ヲ普通トシ其ノ直接徵收ノ方法ニ依ル場合ニハ前納ノ方法ニ依リ之カ納付ヲ確保シ又ハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之カ納付ヲ確保スルコト多シ。

### 第四節 專賣

專賣トハ特定ノ財貨ノ製造、販賣等ニ付之ヲ獨占スルコトヲ指稱シ其ノ目的ノ如何ニ依リ分チテ財政上ノ專賣及公益上ノ專賣ノ二種トス但シ公益上ノ專賣ハ一種ノ公企業ニ屬シ阿片專賣ノ如キ特殊ノ必要アル場合ニ限り認めラルルモノニシテ專賣ノ多クハ財政專賣ニ屬ス。

現在ニ於テ專賣制度ヲ採用セラルル財貨ノ主ナルモノハ煙草、鹽、粗製樟腦及樟腦油、紅蔘並阿片等ニシテ其ノ他ニモ各殖民地特有ノ專賣アリ、特別ノ法令ニ依リ之ヲ規定シ獨占ノ程度及範圍ヲ同ウセス。煙草及紅蔘ニ付テハ耕作製造輸入及販賣ノ總テヲ國家ノ獨占トシ耕作、輸入、販賣ニ付テノミ私人ニ之ヲ特許スルモノトシ、鹽ニ付テハ製造輸入及販賣ヲ國家ノ獨占トスレトモ總テ特許ヲ

專賣ノ觀念

專賣ノ方法



專賣ニ屬スル財貨ノ處分行為ノ性質

受ケタル私人ヲシテ實行セシメ、粗製樟腦及樟腦油ニ付テハ製造及販賣ニ限り國家之ヲ獨占シ且是等ノ行為モ特許ヲ受ケタル私人ヲシテ之ヲ實行セシム。而シテ專賣ニ屬スル財貨ノ耕作及製造等ヲ特許權者ニ行ハシムル場合ニハ耕作品又ハ製造品ヲ一應國家ニ買收シタル後賣捌人ニ卸賣シ然ル後特許ヲ受ケタル小賣人ヲシテ消費者ニ賣卸セシムルヲ適當ノ方法トス。斯カル場合ニ於テ賣捌人カ是等ノ物品ノ拂下ヲ受ケ、小賣人カ賣捌人ヨリ引受ケ消費者ニ賣却スル等ノ行為ハ總テ私法行為ニ屬スルハ勿論ナリト雖國家カ耕作者又ハ製造者ヨリ買受クル處分ハ其ノ性質公法行為ニ屬スルヤ私法行為ニ屬スヤ疑アリ。余ハ公用徵收ト其ノ性質類似シ耕作者又ハ製造者ハ買收ヲ拒ムヲ得サルモノナルカ故ニ公法行為ニ屬スト解シ其ノ補償金ハ之ヲ民法上ノ代金ト異リ其ノ訴訟ハ民事裁判所ノ管轄ニ屬セサルモノナリト思考ス。

### 第五節 會計

國家其ノ他ノ公法人ノ會計ニ付テハ一會計年度ヲ劃シ豫算ヲ樹テ其ノ收支ノ

豫算

基準タラシムルト共ニ當該年度經過後其ノ決算ヲ爲シ審査機關ノ認定ヲ受ケシムルヲ常則トス。以下豫算、決算及出納事務ノ三ニ分チ國家會計事務ノ大體ヲ述ヘム。

#### 一 豫算

豫算トハ國家ノ歲入歲出ノ見積ニシテ帝國議會ノ協賛ト天皇ノ裁可及公布トニ依リ成立シ總テノ國家機關ニ對シ效力ヲ生ス。而シテ豫算ノ效力ニ付テハ豫算制度ノ沿革ニ基キ歲入豫算ト歲出豫算トノ間同シカラス。帝國憲法及會計法等ノ規定ヨリ見レハ歲入ニ付テハ法令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ收入スヘク豫算ハ唯單純ナル見積ニ過キス。之ニ反シ歲出ニ付テハ豫算ヲ以テ國家機關ノ支出ヲ拘束シ豫算ニ計上セラレタル費途及費額ノ外ハ原則トシテ其ノ支出ヲ許サス唯豫備費ニ依ル場合ト所謂剩餘金支出ノ場合トニ於テ例外ヲ見ルニ過キス。而シテ豫算ニハ一般豫算ノ外特別豫算及追加豫算ナルモノ在リ。更ニ地方公共團體ノ豫算ニ付テハ更正豫算ノ制度ヲ認メラル。

國家ノ豫算編成ノ順序ヲ見ルニ先各省大臣ハ毎年度ノ豫定經費概算書ヲ作成



シ前年五月三十一日迄ニ大藏大臣ニ送付スヘク大藏大臣ハ之ヲ檢案シ前年度ト對照ノ上自ラ見積ル歳入概算ト共ニ總概算書ヲ作成シ六月三十日迄ニ閣議ニ提出シ内閣ハ七月十五日迄ニ之ヲ決シ、此ノ決定ニ基キ各省大臣ハ更ニ豫定經費要求書ヲ作成シ八月三十一日迄ニ大藏大臣ニ送付スルモノトシ、大藏大臣ハ之ニ基キ歳入ト共ニ總豫算書ヲ作成シ一定ノ書類ト共ニ閣議ニ提出ス。閣議ニ於テ決定スレハ政府ハ即一定ノ參考書類ヲ添ヘ之ヲ前年帝國議會集會ノ始ニ於テ衆議院ニ提出スルモノトス（會計法第七條）。

## 二 決算

決算トハ豫算執行ノ結果タル現實ノ收支算定書ニシテ會計検査院ノ検査及帝國議會ノ承認ヲ經タル後公布セラルヘキモノトス。今決算調製ノ順序ヲ見ルニ各省大臣ハ翌年度八月三十一日迄ニ豫定經費要求書ト同一區分ニ從ヒ決算報告書ヲ調製シテ大藏大臣ニ提出シ、大藏大臣ハ該報告書ニ基キ總決算書ヲ作成シ閣議ヲ經タル後會計検査院ニ提出シ、其ノ検査終了シタルトキ政府ハ検査報告書ト共ニ一定ノ參考書類ヲ添ヘ翌年開會ノ常會ニ於テ帝國議會ニ之ヲ提出ス

決算

ルモノトス。會計検査院ハ天皇ニ直隸シ議長ヨリ毎年度ノ決算成績ヲ上奏スヘク且會計法規ノ變更又ハ解釋ニ付意見アレハ之ヲ上奏シ得ルモノニシテ帝國議會モ亦決算ニ付意見アレハ其ノ上奏權ヲ發動セシムルヲ得ルモノトス。

## 三 出納事務

國家其ノ他ノ公法人ノ會計ニ在リテハ收支ノ命令機關ト現實ノ出納機關トハ之ヲ區別スルヲ原則トシ、命令機關ハ豫算ニ依遵シテ收支ノ命令ヲ發シ出納機關ハ該命令ニ從ヒ現金又ハ小切手ノ收支ヲ掌ルモノトス。而シテ國庫金ノ出納ニ付テハ會計法ノ改正ト共ニ金庫制度ヲ廢止シ豫金制度ヲ採用シタルノ結果トシテ現金ノ受授ハ日本銀行ヲシテ爲サシメ出納官吏ハ小切手ノ振出ヲ爲スニ過スサルヲ原則トス。仍ホ出納官吏ハ其ノ職務ノ性質ニ鑑ミ一般官吏ニ比シ重キ責任ヲ負フ者ニシテ其ノ保管ニ係ル現金又ハ物品ヲ亡失毀損シタルトキハ善良ナル管理者ノ決意ヲ怠ラサリシコトヲ會計検査院ニ證明シ責任解除ノ判決ヲ受クルニ非サレハ辨償ノ責ヲ免ルルコトヲ得サルモノトス（會計法第三十六條）。

出納



# 行政法要綱 (完)

大正十一年九月十日印刷  
大正十一年九月十五日發行

行政法要綱與付  
定價金參圓



著 作 者 野 村 信 孝  
 發 行 者 東 京 市 神 田 區 仲 猿 樂 町 一 番 地 波 多 野 重 太 郎  
 印 刷 者 東 京 市 牛 込 區 早 稻 田 鶴 卷 町 百 四 十 一 番 地 吉 原 良 三

發 兌 元 東 京 神 田 區 仲 猿 樂 町 九 段 電 話 二 二 五 四 番 二 六 七 六 番 巖 松 堂 書 店

關 西 發 賣 所 大 阪 市 北 區 電 話 北 一 六 五 三 番 一 九 七 二 番 巖 松 堂 大 阪 支 店  
 滿 鮮 發 賣 所 朝 鮮 本 町 二 丁 日 振 替 京 城 二 四 五 四 番 巖 松 堂 京 城 支 店



502  
274



終